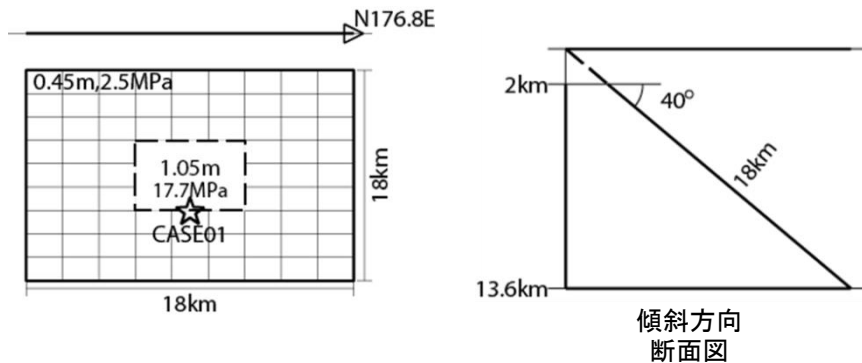


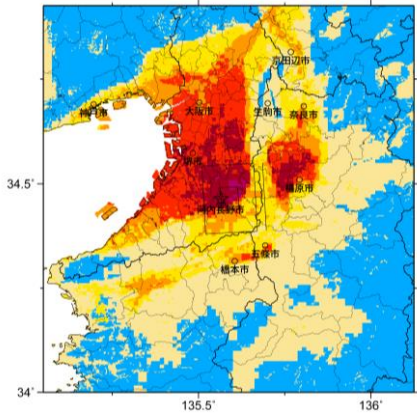
**震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）**  
**中央構造線断層帯金剛山地東縁区間**

強震動予測のための震源パラメータ（2018年版提示モデル）

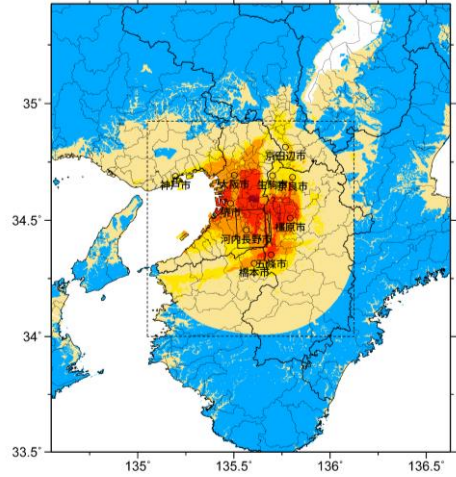
巨視的震源パラメータ		
断層長さ $L$ [km]		16
地震規模 $M$		6.8
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]		2
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]		15
設定手順		(イ)
地震モーメント $M_0$ [Nm]		5.28E+18
モーメントマグニチュード $M_w$		6.4
断層モデル面積 $S_{\text{model}}$ [km <sup>2</sup> ]		324
静的応力低下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		2.2
平均すべり量 $D$ [m]		0.52
走向 $\theta$ [度]		176.8
傾斜角 $\delta$ [度]		40
すべり角 $\lambda$ [度]		180
断層モデル原点緯度 [°N]		34.5491
断層モデル原点経度 [°E]		135.6597
断層モデル上端深さ $D_{\text{top}}$ [km]		2
断層モデル長さ $L_{\text{model}}$ [km]		18
断層モデル幅 $W_{\text{model}}$ [km]		18
微視的震源パラメータ		
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		9.23E+18
短周期レベル（参照） $A_{\text{Dan}}$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		9.23E+18
全 ア ス ペ リ テ イ	面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	40.3
	実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	17.7
	すべり量 $D_a$ [m]	1.05
	地震モーメント $M_{0a}$ [Nm]	1.32E+18
ア ス ペ リ テ イ 1	面積 $S_{a1}$ [km <sup>2</sup> ]	40.3
	実効応力 $\sigma_{a1}$ [MPa]	17.7
	すべり量 $D_{a1}$ [m]	1.05
	地震モーメント $M_{0a1}$ [Nm]	1.32E+18
	計算用面積 [km×km]	6 × 6
ア ス ペ リ テ イ 2	面積 $S_{a2}$ [km <sup>2</sup> ]	—
	実効応力 $\sigma_{a2}$ [MPa]	—
	すべり量 $D_{a2}$ [m]	—
	地震モーメント $M_{0a2}$ [Nm]	—
	計算用面積 [km×km]	—
背 景 領 域	面積 $S_b$ [km <sup>2</sup> ]	283.7
	実効応力 $\sigma_b$ [MPa]	2.5
	すべり量 $D_b$ [m]	0.45
	地震モーメント $M_{0b}$ [Nm]	3.97E+18



アスペリティと破壊開始点の配置図

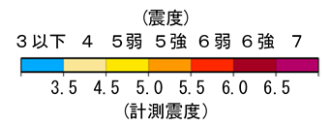


詳細法ケース 1

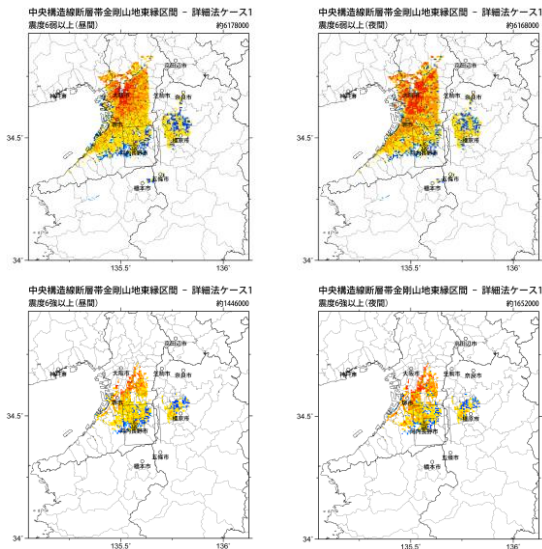


※図中の矩形は詳細法による解析範囲

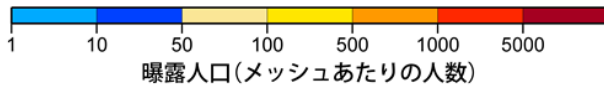
簡便法



地表震度分布



詳細法ケース 1



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯金剛山地東縁区間  
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

**震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）**  
**中央構造線断層帯五条谷区間**

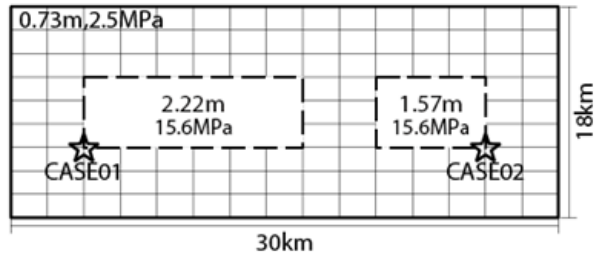
強震動予測のための震源パラメータ（2018年版提示モデル）

巨視的震源パラメータ		中角度		高角度	
断層長さ $L$ [km]		29		29	
地震規模 $M$		7.3		7.3	
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]		4		4	
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]		15		15	
設定手順		(イ)		(イ)	(イ)
地震モーメント $M_0$ [Nm]		1.69E+19		1.69E+19	
モーメントマグニチュード $M_w$		6.8		6.8	
断層モデル面積 $S_{model}$ [km <sup>2</sup> ]		540		408	
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		3.3		5.0	
平均すべり量 $D$ [m]		1.00		1.32	
走向 $\theta$ [度]		249.5		249.5	
傾斜角 $\delta$ [度]		40		90	
すべり角 $\lambda$ [度]		180		180	
断層モデル原点緯度 [°N]		34.4101		34.3962	
断層モデル原点経度 [°E]		135.6928		135.7222	
断層モデル上端深さ $D_{top}$ [km]		4		4	
断層モデル長さ $L_{model}$ [km]		30		34	
断層モデル幅 $W_{model}$ [km]		18		12	
微視的震源パラメータ					
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.36E+19		1.36E+19	
短周期レベル（参照） $A_{Dan}$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.36E+19		1.36E+19	
全 ア ス ペ ク ト 比	面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	113.6		150.3	
	実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	15.6		13.5	
	すべり量 $D_a$ [m]	2.00		2.65	
	地震モーメント $M_{0a}$ [Nm]	7.09E+18		1.24E+19	
ア ス ペ リ テ ィ	面積 $S_{a1}$ [km <sup>2</sup> ]	75.7	113.6	100.2	150.3
	実効応力 $\sigma_{a1}$ [MPa]	15.6	15.6	13.5	13.5
	すべり量 $D_{a1}$ [m]	2.22	2.00	2.93	2.65
	地震モーメント $M_{0a1}$ [Nm]	5.24E+18	7.09E+18	9.17E+18	1.24E+19
	計算用面積 [km×km]	12 × 6	14 × 8	10 × 10	16 × 10
ア ス ペ リ テ ィ	面積 $S_{a2}$ [km <sup>2</sup> ]	37.9	—	50.1	—
	実効応力 $\sigma_{a2}$ [MPa]	15.6	—	13.5	—
	すべり量 $D_{a2}$ [m]	1.57	—	2.07	—
	地震モーメント $M_{0a2}$ [Nm]	1.85E+18	—	3.24E+18	—
	計算用面積 [km×km]	6 × 6	—	8 × 6	—
背 景 領 域	面積 $S_b$ [km <sup>2</sup> ]	426.4		257.7	
	実効応力 $\sigma_b$ [MPa]	2.5		2.1	
	すべり量 $D_b$ [m]	0.73		0.55	
	地震モーメント $M_{0b}$ [Nm]	9.76E+18		4.44E+18	

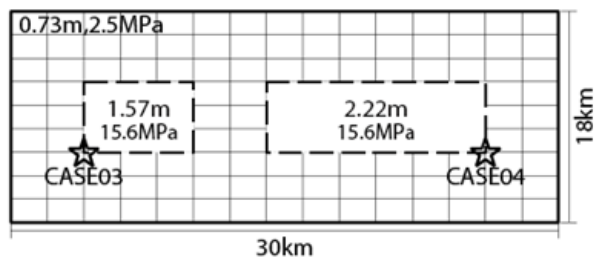
※赤字：アスペクト比が2を超えたことにより平均応力降下量 3.1MPa、アスペリティ面積が断層面積の22%を仮定したモデル。このモデルは震源パラメータを示すのみであり、断層モデル図および地表震度分布図は扱わない。

中角度

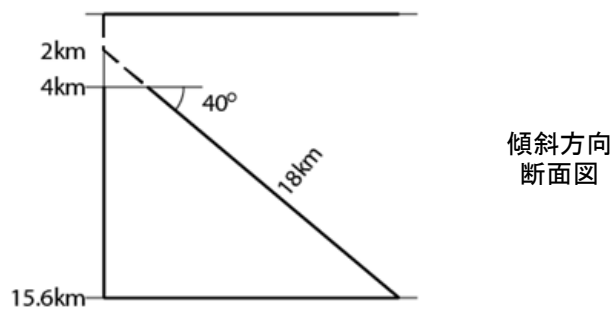
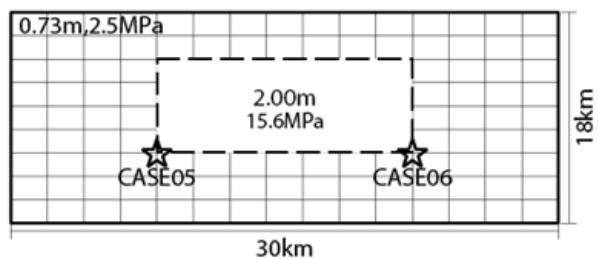
N249.5E



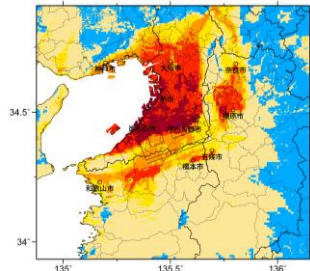
N249.5E



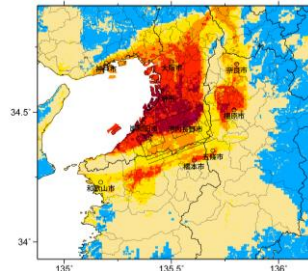
N249.5E



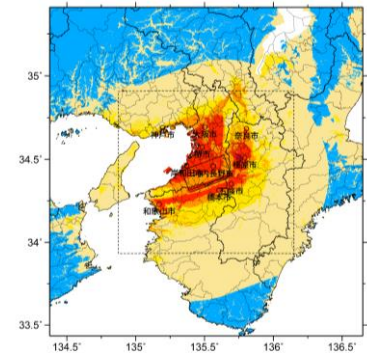
アスペリティと破壊開始点の配置図



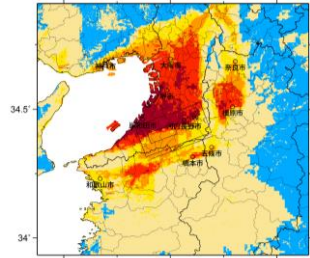
詳細法ケース 1



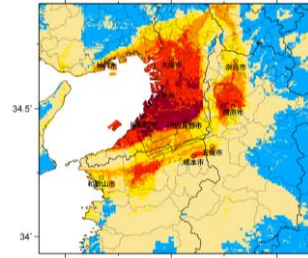
詳細法ケース 2



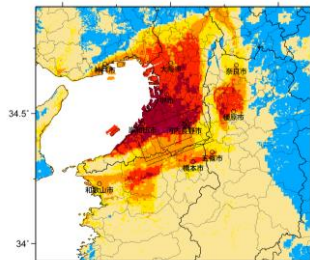
※図中の矩形は詳細法による解析範囲  
簡便法



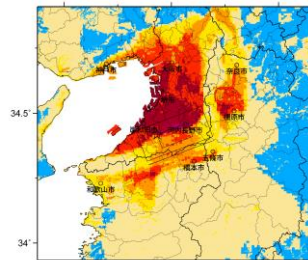
詳細法ケース 3



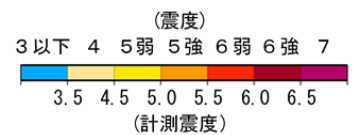
詳細法ケース 4



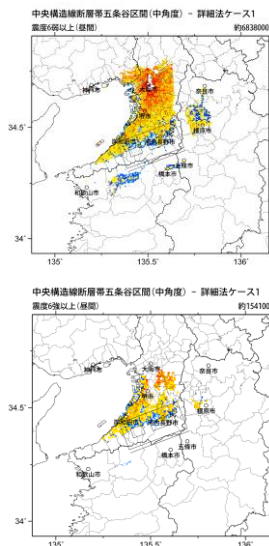
詳細法ケース 5



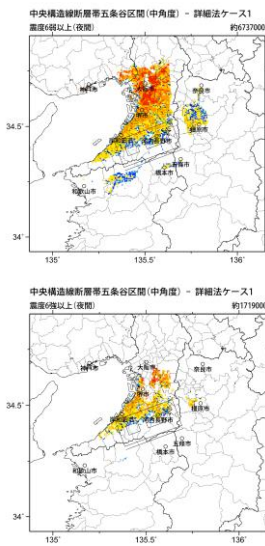
詳細法ケース 6



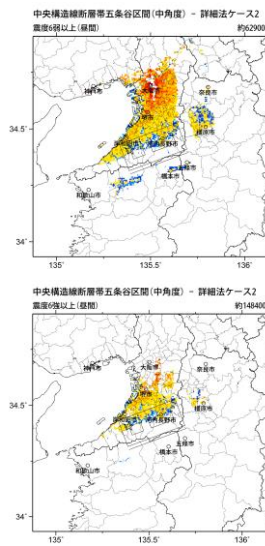
地表震度分布



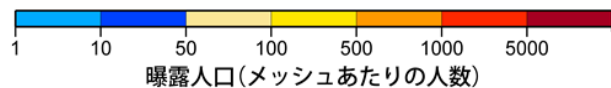
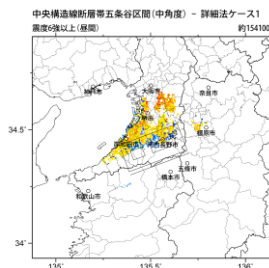
詳細法ケース 1



詳細法ケース 2



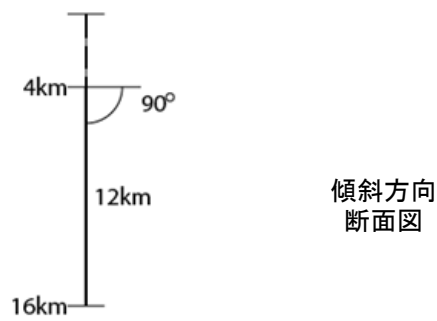
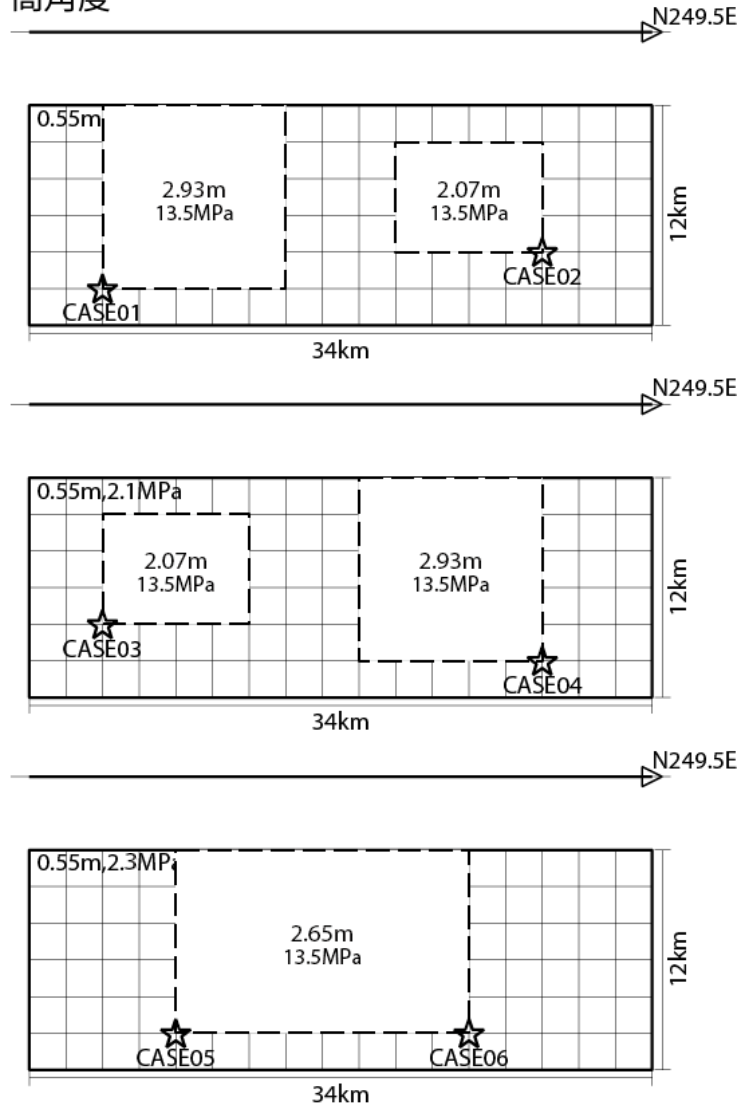
(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)



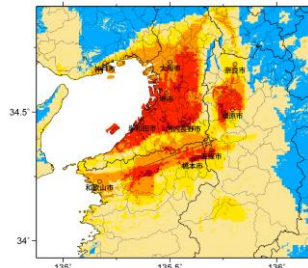
震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯五条谷区間【中角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

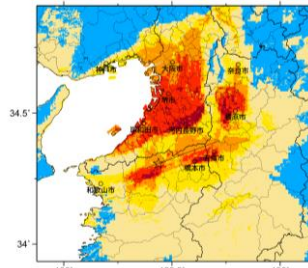
高角度



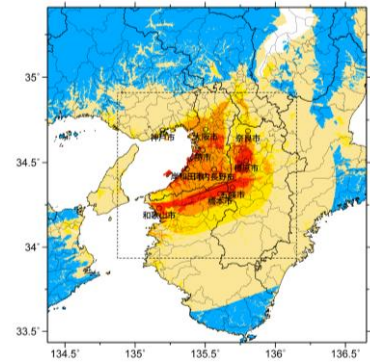
アスペリティと破壊開始点の配置図



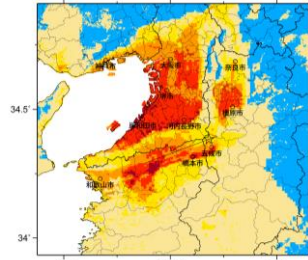
詳細法ケース 1



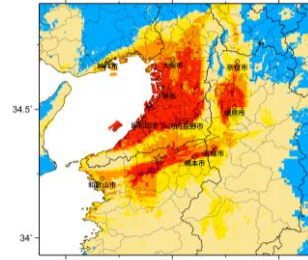
詳細法ケース 2



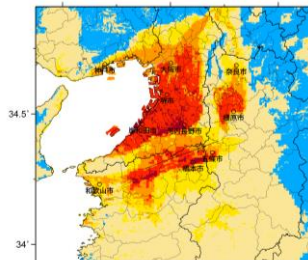
※図中の矩形は詳細法による解析範囲  
簡便法



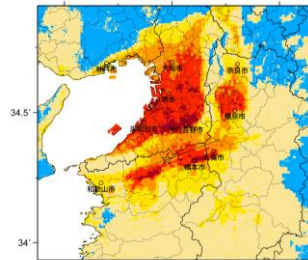
詳細法ケース 3



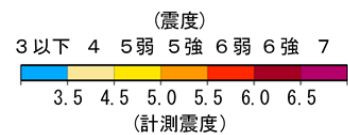
詳細法ケース 4



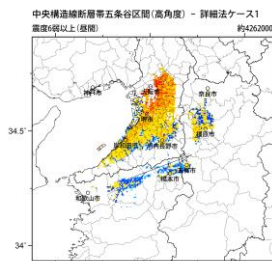
詳細法ケース 5



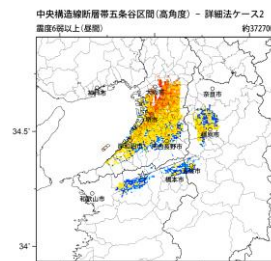
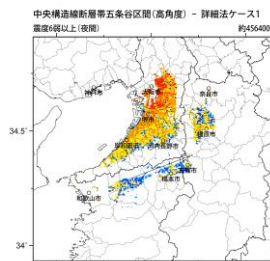
詳細法ケース 6



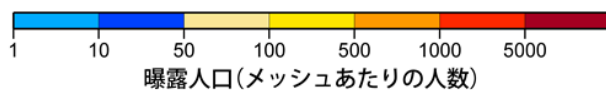
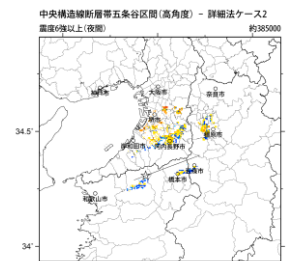
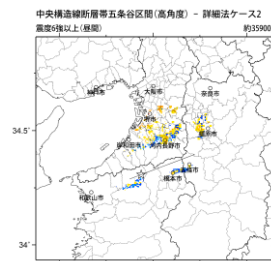
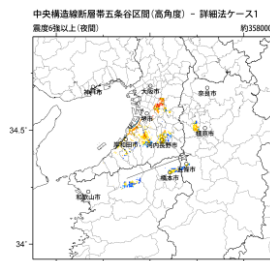
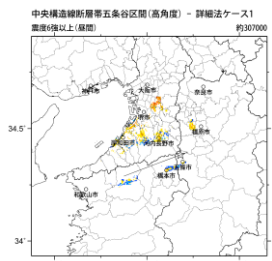
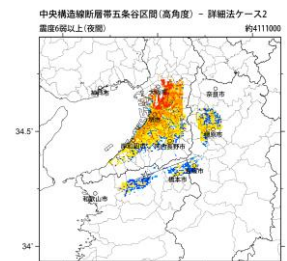
地表震度分布



詳細法ケース 1



詳細法ケース 2



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯五条谷区間【高角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図(シナリオ地震動予測地図)

**震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）**  
**中央構造線断層帯根来区間**

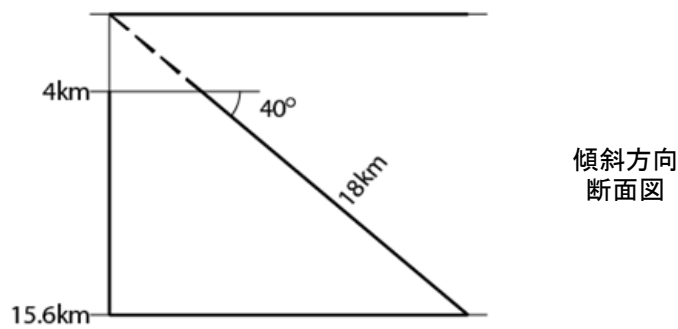
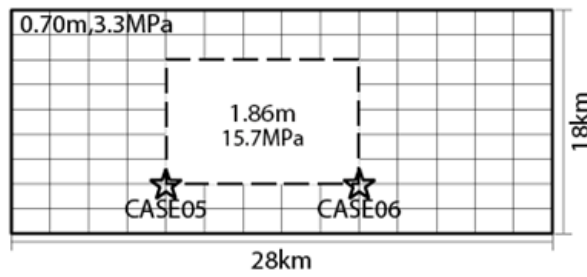
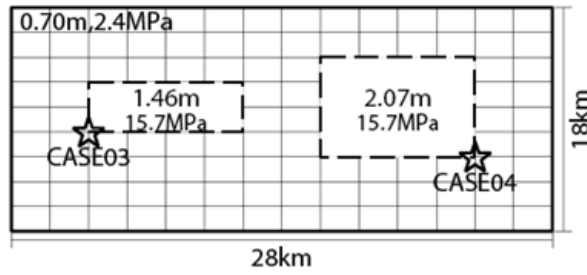
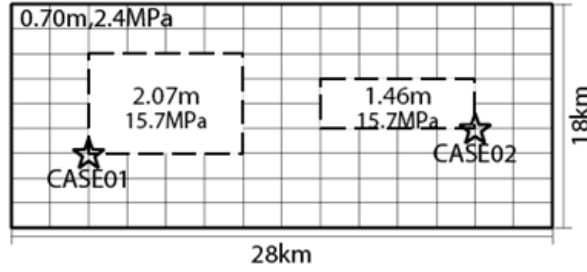
強震動予測のための震源パラメータ（2018年版提示モデル）

巨視的震源パラメータ		中角度		高角度		
断層長さ $L$ [km]		27		27		
地震規模 $M$		7.2		7.2		
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]		4		4		
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]		15		15		
設定手順		(イ)		(イ)	(イ)	
地震モーメント $M_0$ [Nm]		1.47E+19		1.47E+19	1.47E+19	
モーメントマグニチュード $M_w$		6.7		6.7	6.7	
断層モデル面積 $S_{model}$ [km <sup>2</sup> ]		504		384	384	
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		3.2		4.7	<b>3.1</b>	
平均すべり量 $D$ [m]		0.93		1.22	1.22	
走向 $\theta$ [度]		258.1		258.1	258.1	
傾斜角 $\delta$ [度]		40		90	90	
すべり角 $\lambda$ [度]		180		180	180	
断層モデル原点緯度 [°N]		34.3398		34.3015	34.3015	
断層モデル原点経度 [°E]		135.3973		135.4292	135.4292	
断層モデル上端深さ $D_{top}$ [km]		4		4	4	
断層モデル長さ $L_{model}$ [km]		28		32	32	
断層モデル幅 $W_{model}$ [km]		18		12	12	
微視的震源パラメータ						
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.30E+19		1.30E+19	1.06E+19	
短周期レベル（参照） $A_{Dan}$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.30E+19		1.30E+19	1.30E+19	
全 ア ス ペ リ テ ィ	面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	101.0		132.6	<b>84.5</b>	
	実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	15.7		13.7	14.1	
	すべり量 $D_a$ [m]	1.86		2.45	2.45	
	地震モーメント $M_{0a}$ [Nm]	5.88E+18		1.01E+19	6.45E+18	
ア ス ペ リ テ ィ 1	面積 $S_{a1}$ [km <sup>2</sup> ]	67.4	101.0	88.4	132.6	56.3
	実効応力 $\sigma_{a1}$ [MPa]	15.7	15.7	13.7	13.7	14.1
	すべり量 $D_{a1}$ [m]	2.07	1.86	2.71	2.45	2.71
	地震モーメント $M_{0a1}$ [Nm]	4.34E+18	5.88E+18	7.48E+18	1.01E+19	4.77E+18
	計算用面積 [km×km]	8 × 8	10 × 10	12 × 8	14 × 10	10 × 6
ア ス ペ リ テ ィ 2	面積 $S_{a2}$ [km <sup>2</sup> ]	33.7	—	44.2	—	28.2
	実効応力 $\sigma_{a2}$ [MPa]	15.7	—	13.7	—	14.1
	すべり量 $D_{a2}$ [m]	1.46	—	1.92	—	1.92
	地震モーメント $M_{0a2}$ [Nm]	1.54E+18	—	2.65E+18	—	1.68E+18
	計算用面積 [km×km]	8 × 4	—	8 × 6	—	8 × 4
背 景 領 域	面積 $S_b$ [km <sup>2</sup> ]	403.0	403.0	251.4	251.4	299.5
	実効応力 $\sigma_b$ [MPa]	2.4	3.3	2.3	2.7	2.9
	すべり量 $D_b$ [m]	0.70	0.70	0.58	0.58	0.88
	地震モーメント $M_{0b}$ [Nm]	8.78E+18	8.78E+18	4.53E+18	4.53E+18	8.21E+18

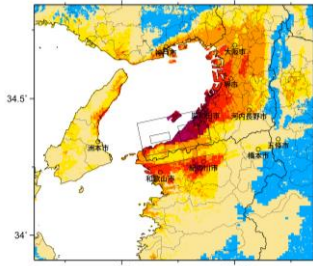
※赤字：アスペクト比が2を超えたことにより平均応力降下量 3.1MPa、アスペリティ面積が断層面積の22%を仮定したモデル。このモデルは震源パラメータを示すのみであり、断層モデル図および地表震度分布図は扱わない。



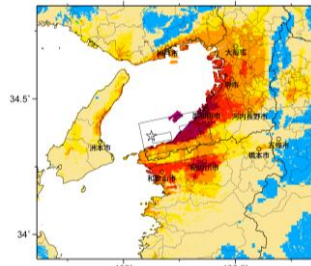
中角度



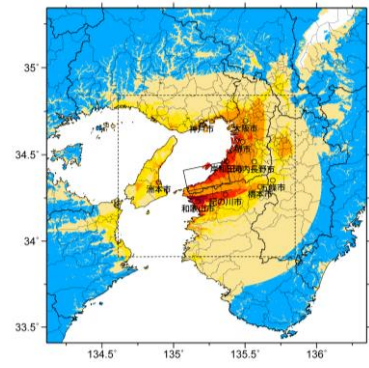
アスペリティと破壊開始点の配置図



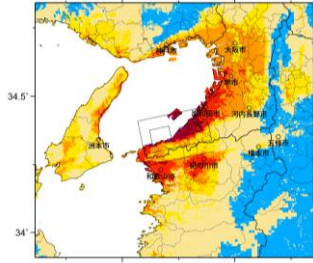
詳細法ケース 1



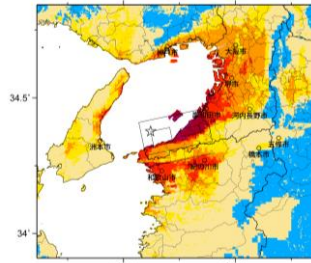
詳細法ケース 2



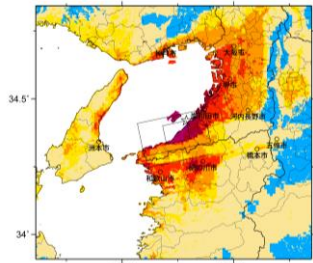
※図中の矩形は詳細法による解析範囲  
簡便法



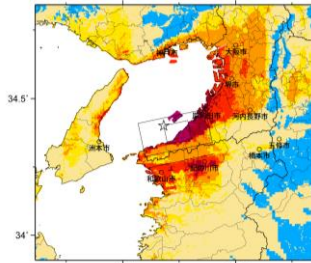
詳細法ケース 3



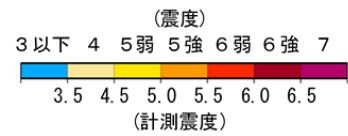
詳細法ケース 4



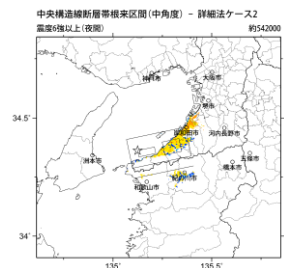
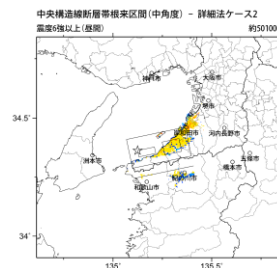
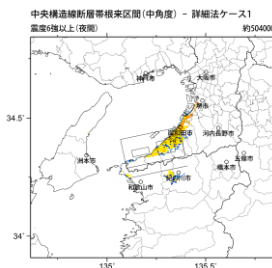
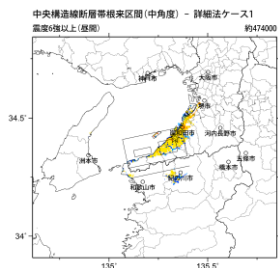
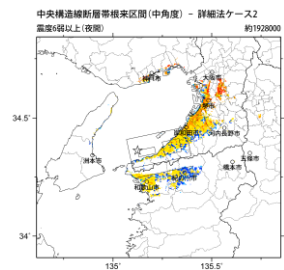
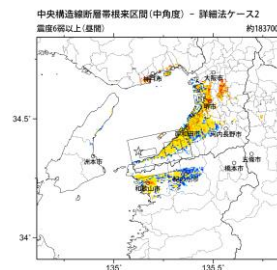
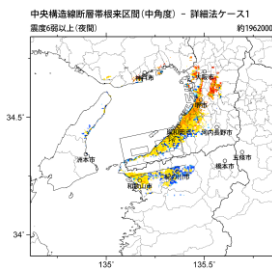
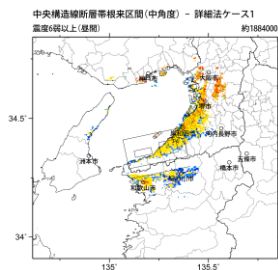
詳細法ケース 5



詳細法ケース 6

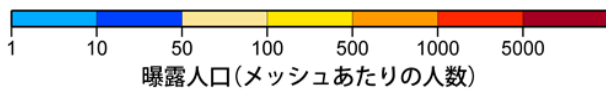


地表震度分布



詳細法ケース 1

詳細法ケース 2

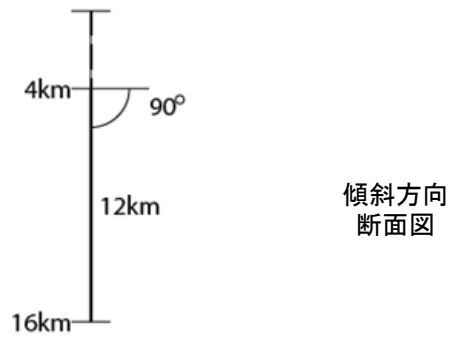
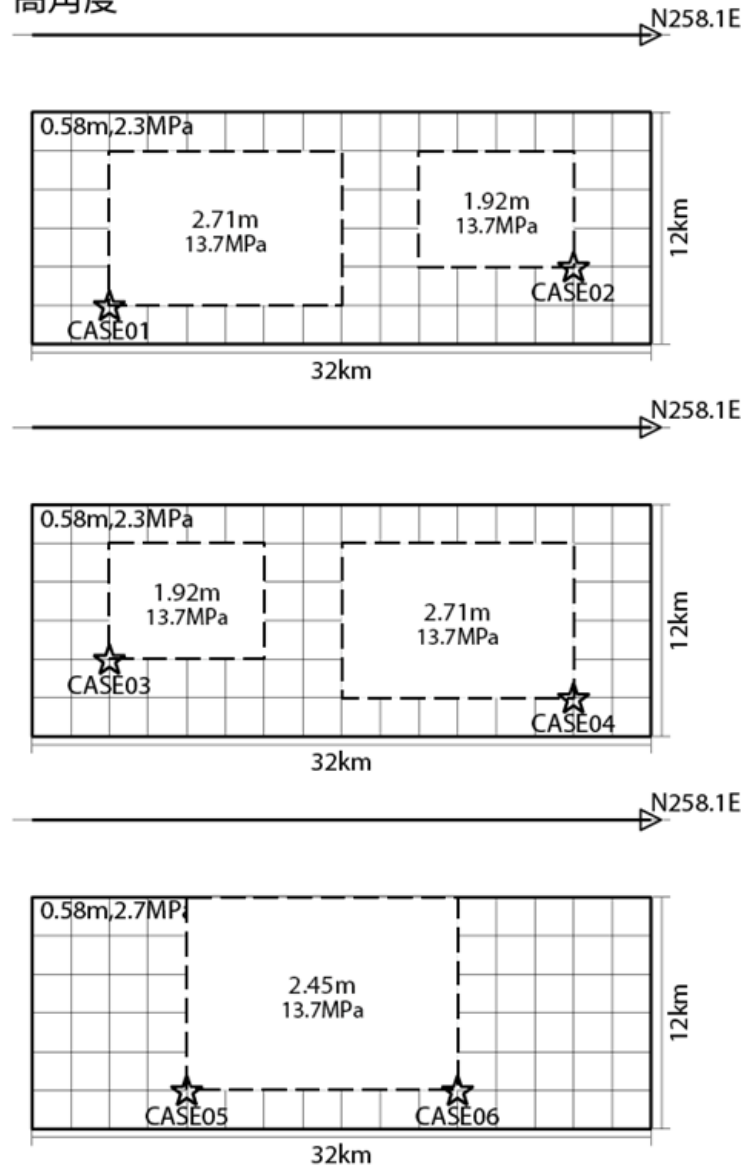


(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

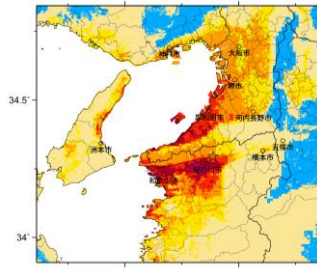
震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯根来区間【中角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図(シナリオ地震動予測地図)

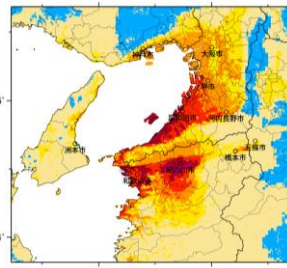
高角度



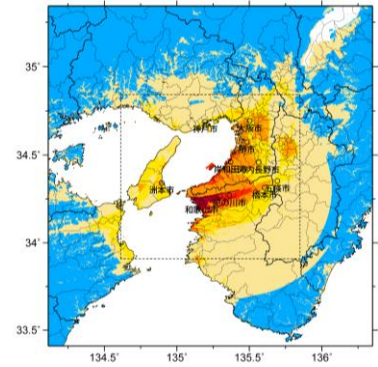
アスペリティと破壊開始点の配置図



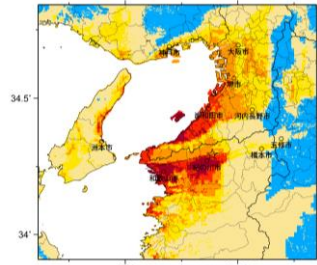
詳細法ケース 1



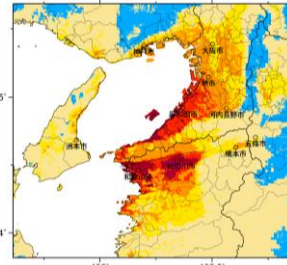
詳細法ケース 2



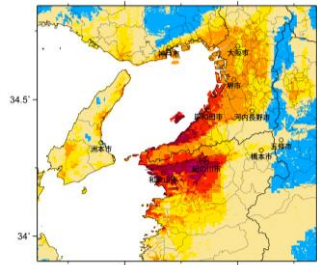
※図中の矩形は詳細法による解析範囲  
簡便法



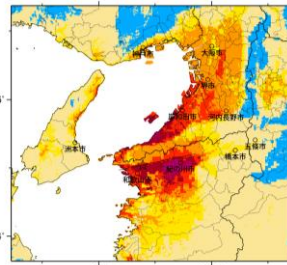
詳細法ケース 3



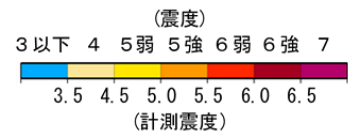
詳細法ケース 4



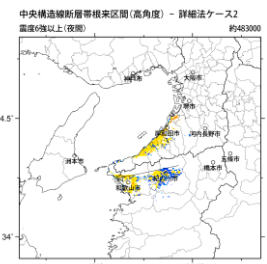
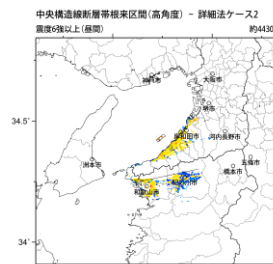
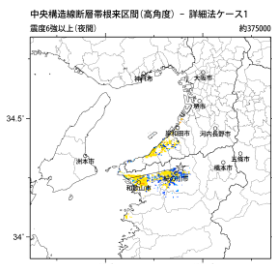
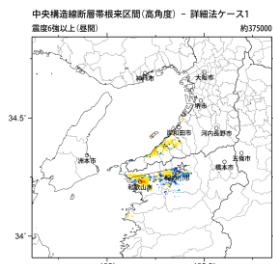
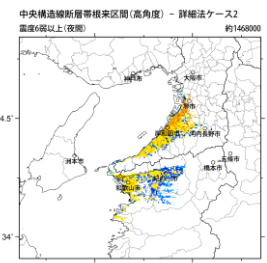
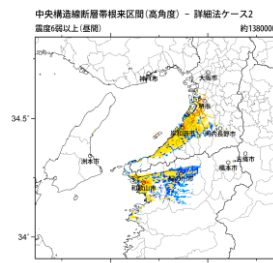
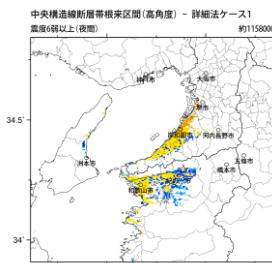
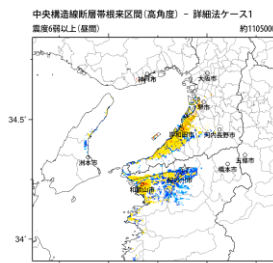
詳細法ケース 5



詳細法ケース 6

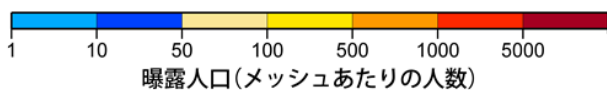


地表震度分布



詳細法ケース 1

詳細法ケース 2



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯根来区間【高角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図(シナリオ地震動予測地図)

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）  
中央構造線断層帯紀淡海峡－鳴門海峡区間

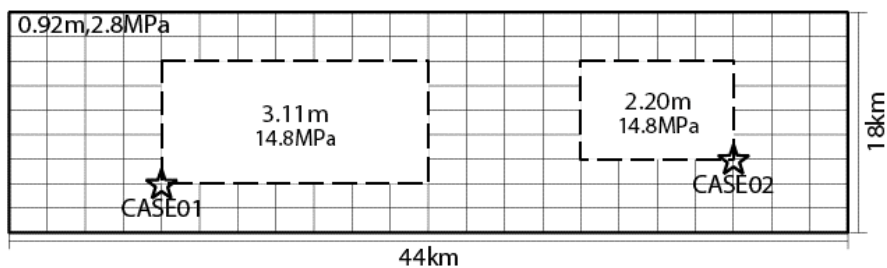
強震動予測のための震源パラメータ（2018年版提示モデル）

巨視的震源パラメータ		中角度		高角度
断層長さ $L$ [km]		42		42
地震規模 $M$		7.5		7.5
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]		4		4
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]		15		15
設定手順		(イ)	(イ)	(イ)
地震モーメント $M_0$ [Nm]		3.47E+19	3.47E+19	3.47E+19
モーメントマグニチュード $M_w$		7.0	7.0	7.0
断層モデル面積 $S_{model}$ [km <sup>2</sup> ]		792	792	552
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		3.8	<b>3.1</b>	3.1
平均すべり量 $D$ [m]		1.40	1.40	2.01
走向 $\theta$ [度]		258.5	258.5	258.5
傾斜角 $\delta$ [度]		40	40	90
すべり角 $\lambda$ [度]		180	180	180
断層モデル原点緯度 [°N]		34.2886	34.2886	34.2483
断層モデル原点経度 [°E]		135.0986	135.0986	135.1195
断層モデル上端深さ $D_{top}$ [km]		4	4	4
断層モデル長さ $L_{model}$ [km]		44	44	46
断層モデル幅 $W_{model}$ [km]		18	18	12
微視的震源パラメータ				
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.73E+19	1.52E+19	1.27E+19
短周期レベル（参照） $A_{Dan}$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.73E+19	1.73E+19	1.73E+19
リア ス ペ リ テ ィ	面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	202.8	<b>174.2</b>	121.4
	実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	14.8	14.1	14.1
	すべり量 $D_a$ [m]	2.81	2.81	4.03
	地震モーメント $M_{0a}$ [Nm]	1.78E+19	1.53E+19	1.53E+19
ア ス ペ リ テ ィ 1	面積 $S_{a1}$ [km <sup>2</sup> ]	135.2	116.2	81.0
	実効応力 $\sigma_{a1}$ [MPa]	14.8	14.1	14.1
	すべり量 $D_{a1}$ [m]	3.11	3.11	4.46
	地震モーメント $M_{0a1}$ [Nm]	1.31E+19	1.13E+19	1.13E+19
	計算用面積 [km×km]	14 × 10	12 × 10	10 × 8
ア ス ペ リ テ ィ 2	面積 $S_{a2}$ [km <sup>2</sup> ]	67.6	58.1	40.5
	実効応力 $\sigma_{a2}$ [MPa]	14.8	14.1	14.1
	すべり量 $D_{a2}$ [m]	2.20	2.20	3.16
	地震モーメント $M_{0a2}$ [Nm]	4.64E+18	3.99E+18	3.99E+18
	計算用面積 [km×km]	8 × 8	10 × 6	6 × 6
背 景 領 域	面積 $S_b$ [km <sup>2</sup> ]	589.2	617.8	430.6
	実効応力 $\sigma_b$ [MPa]	2.8	2.7	3.4
	すべり量 $D_b$ [m]	0.92	1.01	1.45
	地震モーメント $M_{0b}$ [Nm]	1.69E+19	1.94E+19	1.94E+19

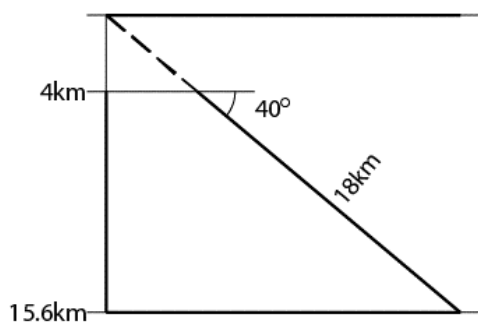
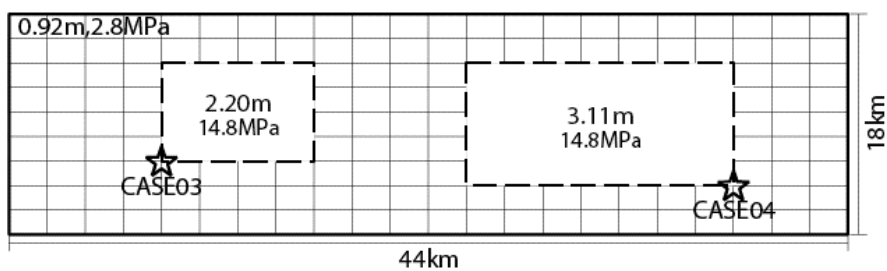
※赤字：アスペクト比が2を超えたことにより平均応力降下量3.1MPa、アスペリティ面積が断層面積の22%を仮定したモデル。このモデルは震源パラメータを示すのみであり、断層モデル図および地表震度分布図は扱わない。

中角度

N258.5E

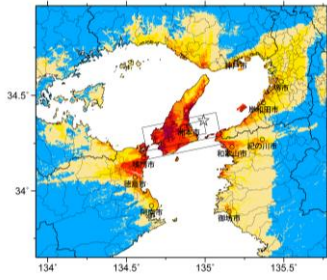


N258.5E

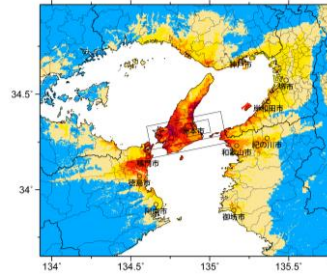


傾斜方向  
断面図

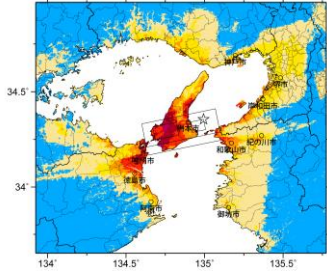
アスペリティと破壊開始点の配置図



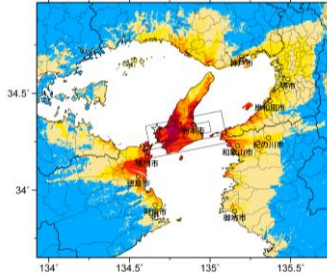
詳細法ケース 1



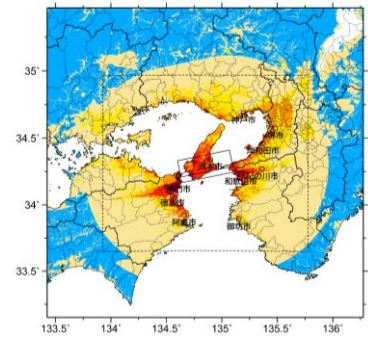
詳細法ケース 2



詳細法ケース 3

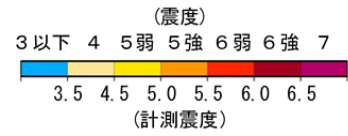


詳細法ケース 4

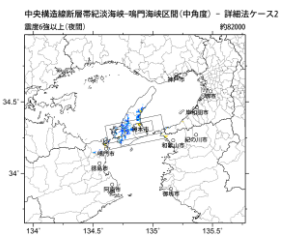
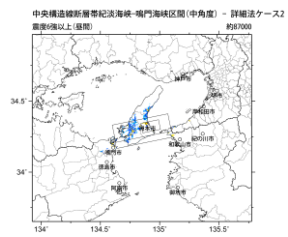
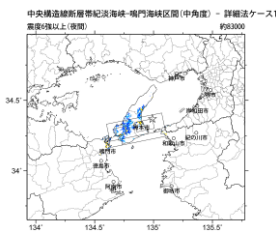
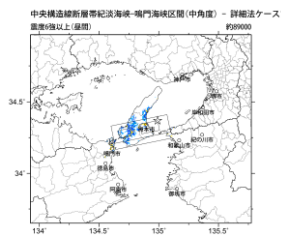
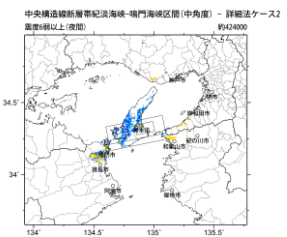
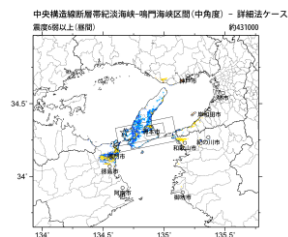
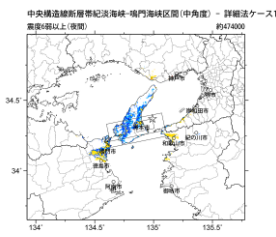
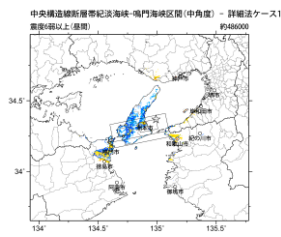


※図中の矩形は詳細法による解析範囲

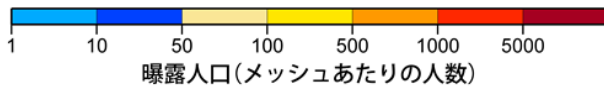
簡便法



地表震度分布



詳細法ケース 1



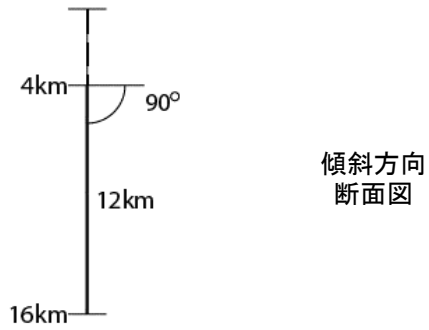
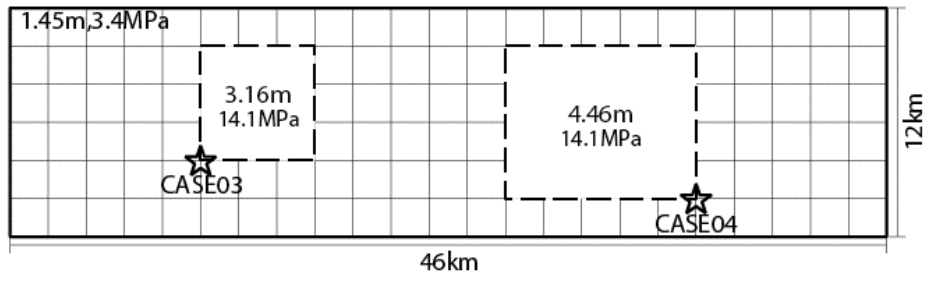
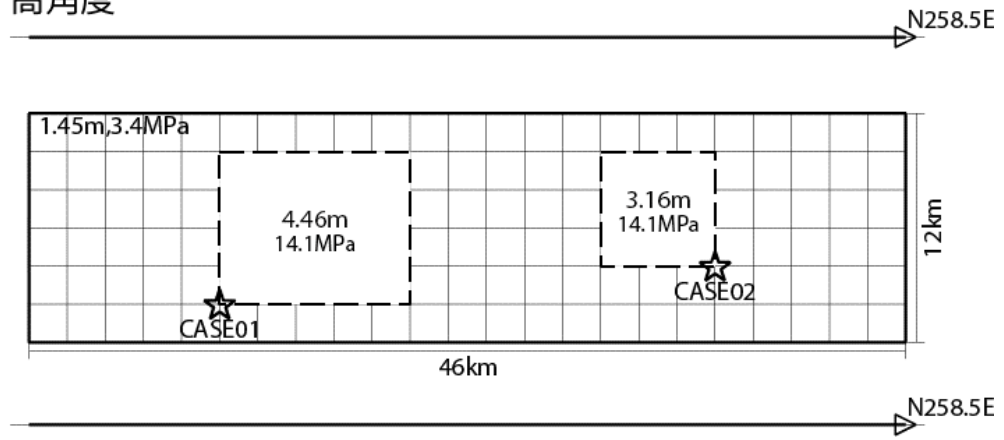
詳細法ケース 2

(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

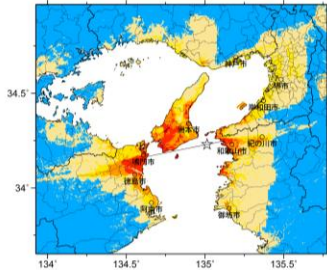
中央構造線断層帯紀淡海峡-鳴門海峡区間【中角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図(シナリオ地震動予測地図)

高角度

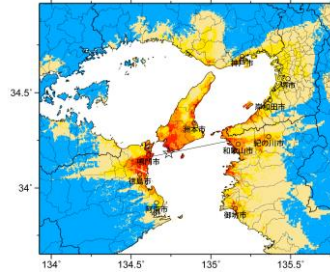


アスペリティと破壊開始点の配置図

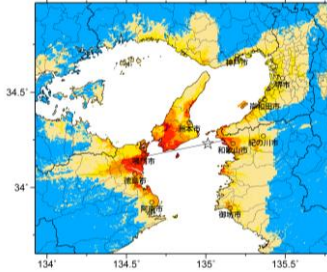




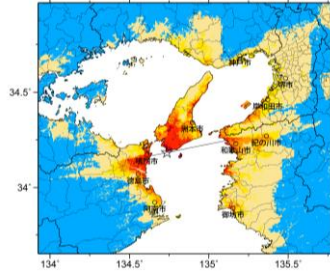
詳細法ケース 1



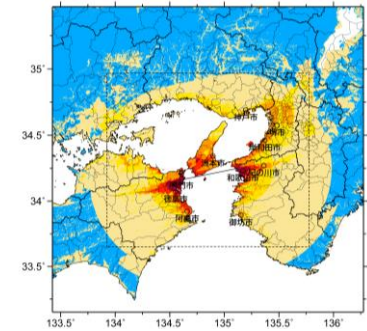
詳細法ケース 2



詳細法ケース 3

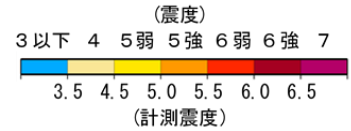


詳細法ケース 4

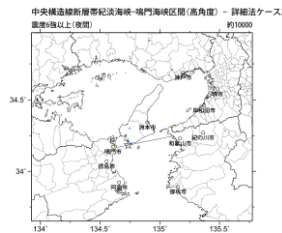
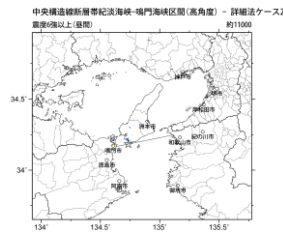
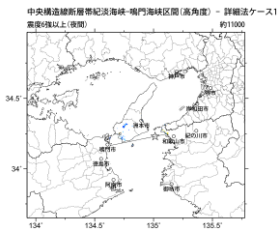
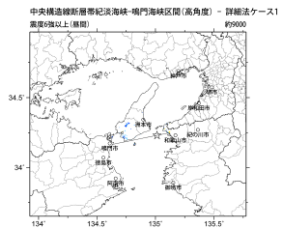
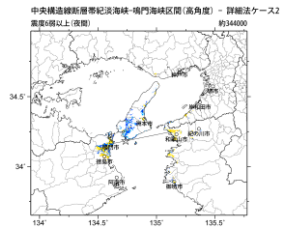
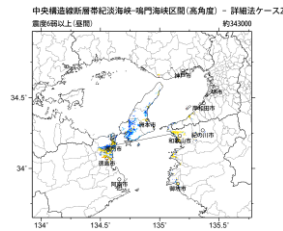
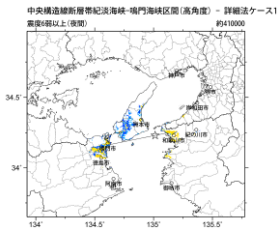
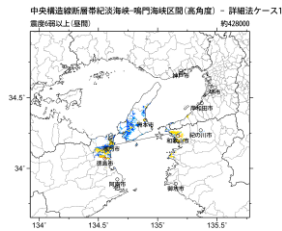


※図中の矩形は詳細法による解析範囲

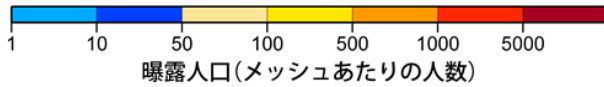
簡便法



地表震度分布



詳細法ケース 1



詳細法ケース 2

(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯紀淡海峡-鳴門海峡区間【高角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図(シナリオ地震動予測地図)

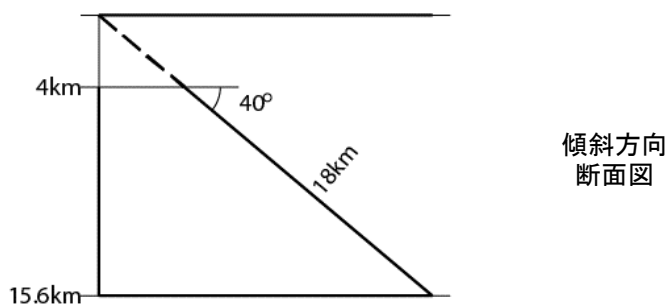
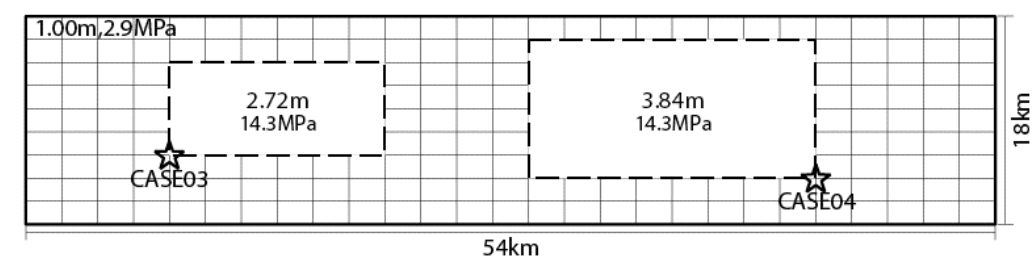
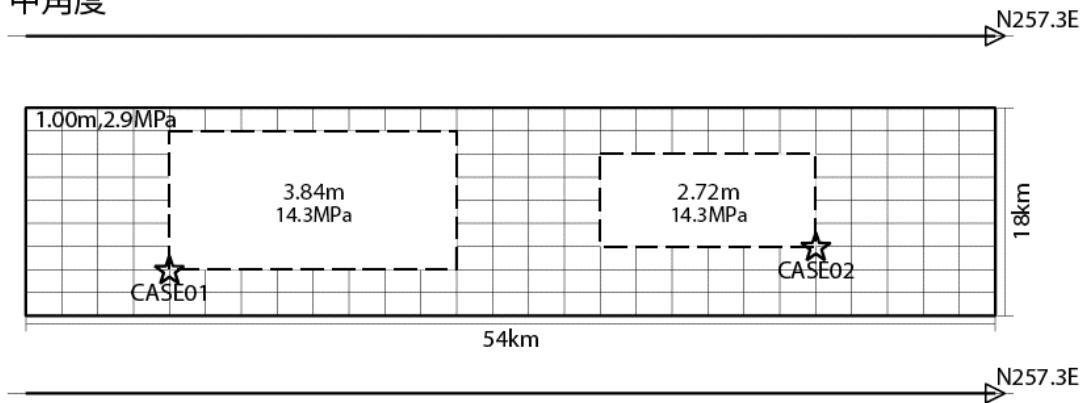
**震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）**  
**中央構造線断層帯讃岐山脈南縁東部区間**

強震動予測のための震源パラメータ（2018年版提示モデル）

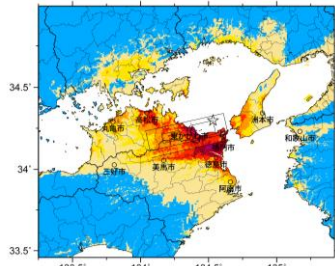
巨視的震源パラメータ		中角度		高角度
断層長さ $L$ [km]		52		52
地震規模 $M$		7.7		7.7
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]		4		4
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]		15		15
設定手順		(イ)	(イ)	(イ)
地震モーメント $M_0$ [Nm]		5.26E+19	5.26E+19	5.26E+19
モーメントマグニチュード $M_w$		7.1	7.1	7.1
断層モデル面積 $S_{model}$ [km <sup>2</sup> ]		972	972	672
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		4.2	<b>3.1</b>	3.1
平均すべり量 $D$ [m]		1.73	1.73	2.51
走向 $\theta$ [度]		257.3	257.3	257.3
傾斜角 $\delta$ [度]		40	40	90
すべり角 $\lambda$ [度]		180	180	180
断層モデル原点緯度 [°N]		34.2186	34.2186	34.1786
断層モデル原点経度 [°E]		134.6423	134.6423	134.6643
断層モデル上端深さ $D_{top}$ [km]		4	4	4
断層モデル長さ $L_{model}$ [km]		54	54	56
断層モデル幅 $W_{model}$ [km]		18	18	12
微視的震源パラメータ				
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.99E+19	1.69E+19	1.40E+19
短周期レベル（参照） $A_{Dan}$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.99E+19	1.99E+19	1.99E+19
全 ア ス ペ ィ テ ィ	面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	288.0	<b>213.8</b>	147.8
	実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	14.3	14.1	14.1
	すべり量 $D_a$ [m]	3.47	3.47	5.02
	地震モーメント $M_{0a}$ [Nm]	3.12E+19	2.32E+19	2.32E+19
ア ス ペ ィ テ ィ 1	面積 $S_{a1}$ [km <sup>2</sup> ]	192.0	142.6	98.6
	実効応力 $\sigma_{a1}$ [MPa]	14.3	14.1	14.1
	すべり量 $D_{a1}$ [m]	3.84	3.84	5.56
	地震モーメント $M_{0a1}$ [Nm]	2.30E+19	1.71E+19	1.71E+19
	計算用面積 [km×km]	16 × 12	12 × 12	10 × 10
ア ス ペ ィ テ ィ 2	面積 $S_{a2}$ [km <sup>2</sup> ]	96.0	71.3	49.3
	実効応力 $\sigma_{a2}$ [MPa]	14.3	14.1	14.1
	すべり量 $D_{a2}$ [m]	2.72	2.72	3.93
	地震モーメント $M_{0a2}$ [Nm]	8.14E+18	6.05E+18	6.05E+18
	計算用面積 [km×km]	12 × 8	12 × 6	8 × 6
背 景 領 域	面積 $S_b$ [km <sup>2</sup> ]	684.0	758.2	524.2
	実効応力 $\sigma_b$ [MPa]	2.9	3.0	3.8
	すべり量 $D_b$ [m]	1.00	1.25	1.80
	地震モーメント $M_{0b}$ [Nm]	2.14E+19	2.95E+19	2.95E+19

※赤字：アスペクト比が2を超えたことにより平均応力降下量 3.1MPa、アスペリティ面積が断層面積の22%を仮定したモデル。このモデルは震源パラメータを示すのみであり、断層モデル図および地表震度分布図は扱わない。

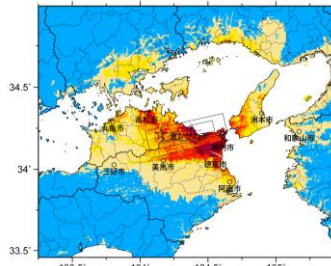
中角度



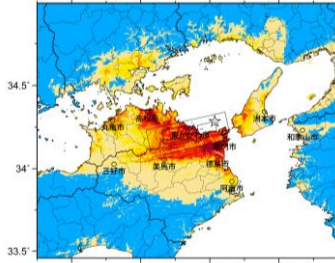
アスペリティと破壊開始点の配置図



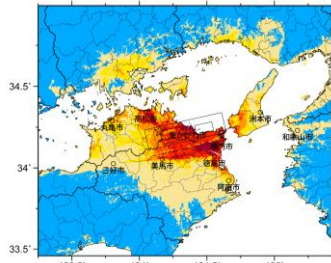
詳細法ケース 1



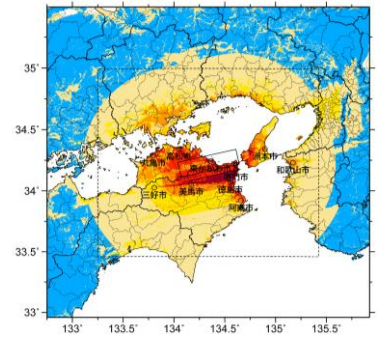
詳細法ケース 2



詳細法ケース 3

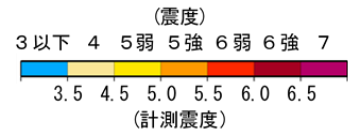


詳細法ケース 4

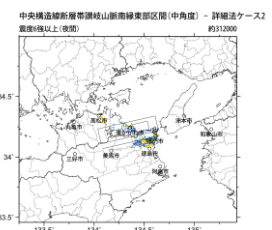
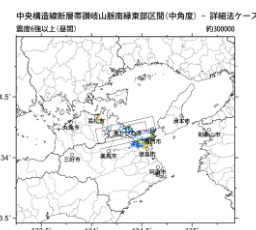
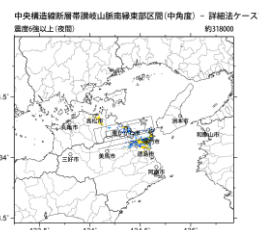
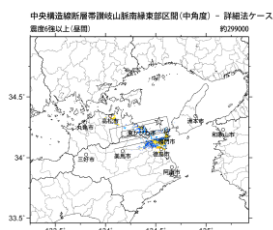
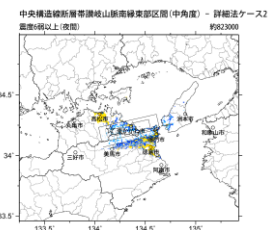
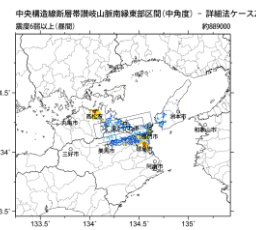
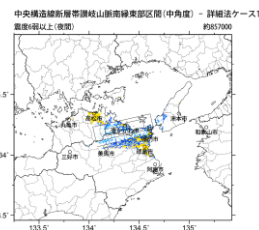
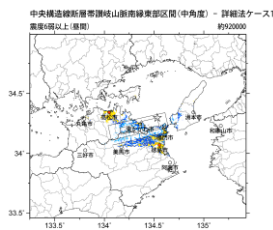


※図中の矩形は詳細法による解析範囲

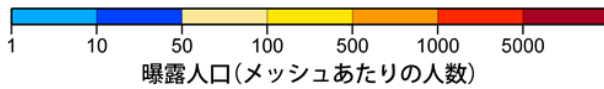
簡便法



地表震度分布



詳細法ケース 1



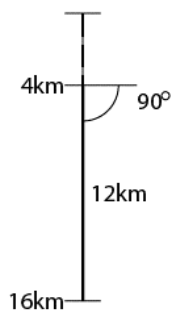
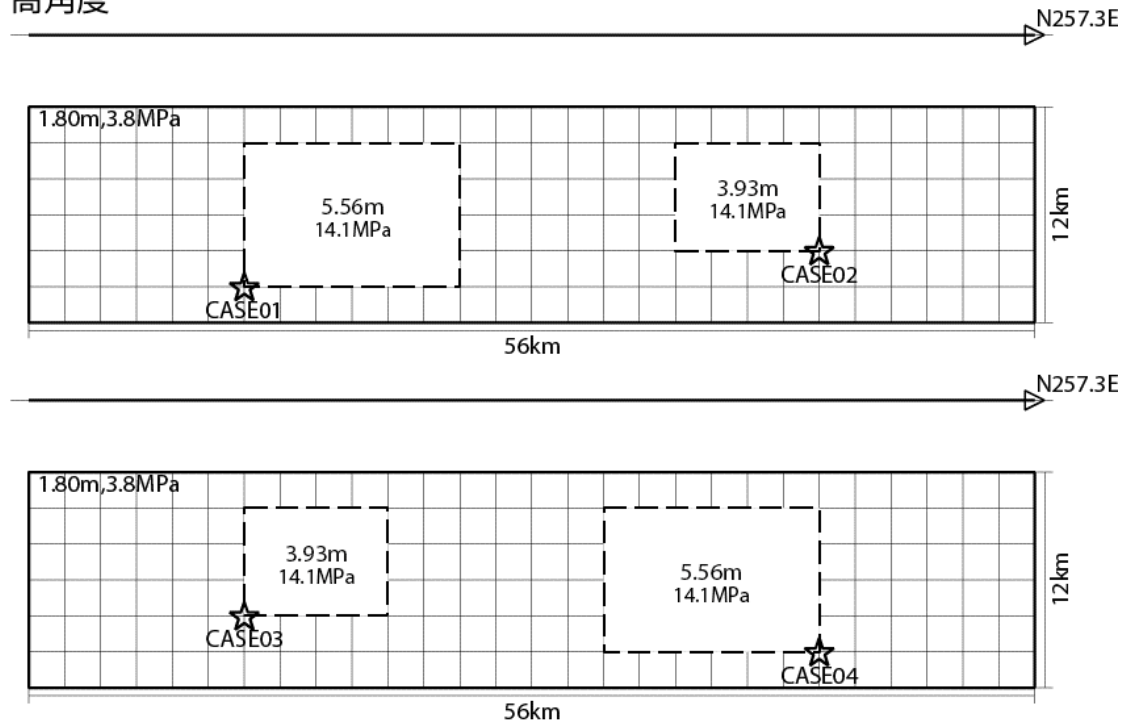
詳細法ケース 2

(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

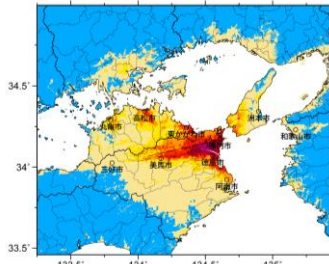
中央構造線断層帯讃岐山脈南縁東部区間【中角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図(シナリオ地震動予測地図)

高角度

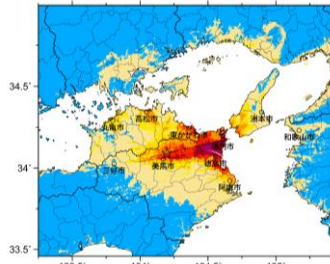


傾斜方向  
断面図

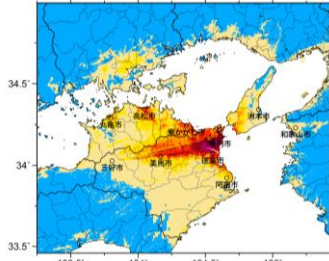
アスペリティと破壊開始点の配置図



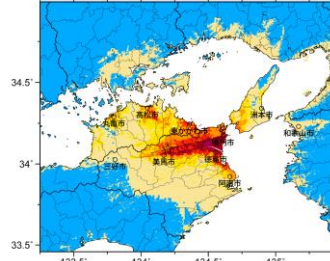
詳細法ケース 1



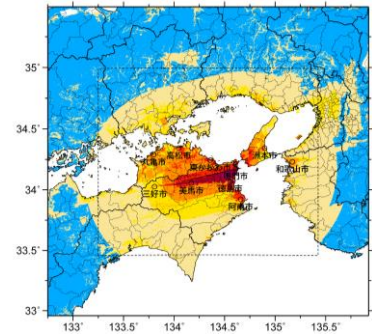
詳細法ケース 2



詳細法ケース 3

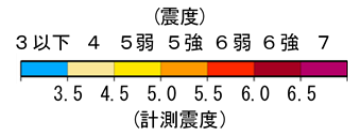


詳細法ケース 4

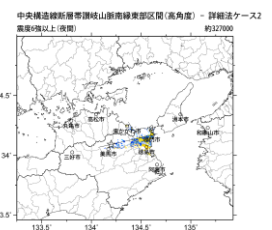
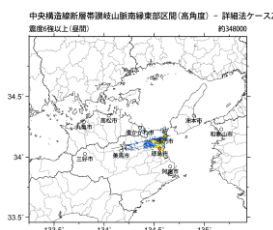
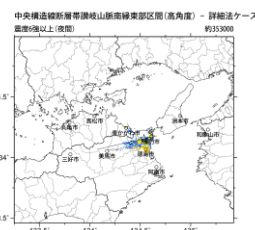
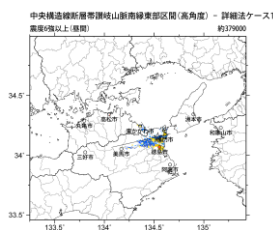
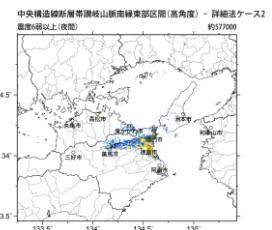
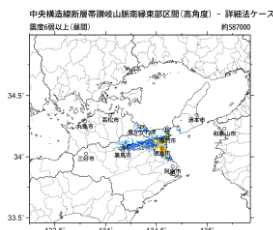
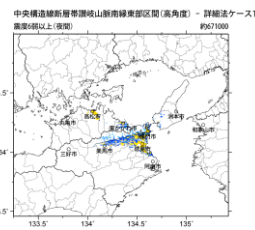
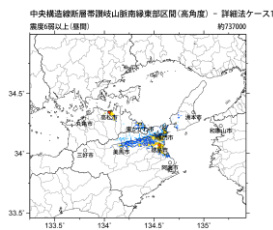


※図中の矩形は詳細法による解析範囲

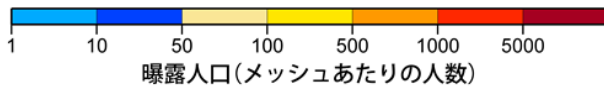
簡便法



地表震度分布



詳細法ケース 1



詳細法ケース 2

(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯讃岐山脈南縁東部区間【高角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図(シナリオ地震動予測地図)

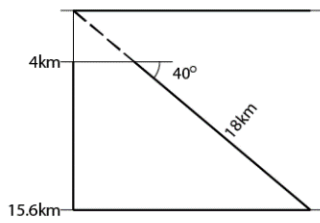
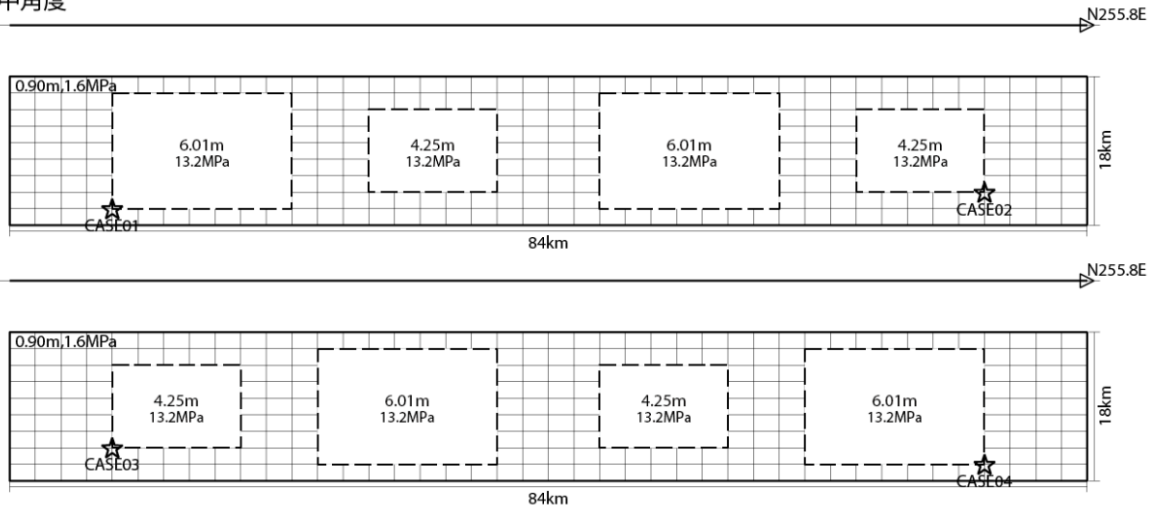
**震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）**  
**中央構造線断層帯讃岐山脈南縁西部区間**

強震動予測のための震源パラメータ（2018年版提示モデル）

巨視的震源パラメータ		中角度				高角度	
断層長さ $L$ [km]		82				82	
地震規模 $M$		8.0				8.0	
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]		4				4	
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]		15				15	
設定手順		(イ)		(イ)		(イ)	
地震モーメント $M_0$ [Nm]		1.28E+20		1.28E+20		1.28E+20	
モーメントマグニチュード $M_w$		7.3		7.3		7.3	
断層モデル面積 $S_{\text{model}}$ [km <sup>2</sup> ]		1512		1512		1032	
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		5.3		3.1		3.1	
平均すべり量 $D$ [m]		2.71		2.71		3.97	
走向 $\theta$ [度]		255.8		255.8		255.8	
傾斜角 $\delta$ [度]		40		40		90	
すべり角 $\lambda$ [度]		180		180		180	
断層モデル原点緯度 [°N]		34.1255		34.1255		34.0860	
断層モデル原点経度 [°E]		134.0908		134.0908		134.1140	
断層モデル上端深さ $D_{\text{top}}$ [km]		4		4		4	
断層モデル長さ $L_{\text{model}}$ [km]		84		84		86	
断層モデル幅 $W_{\text{model}}$ [km]		18		18		12	
微視的震源パラメータ							
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		2.67E+19		2.11E+19		1.74E+19	
短周期レベル（参照） $A_{\text{Dan}}$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		2.67E+19		2.67E+19		2.67E+19	
全 ア ス ペ ク ト 比	面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	605.0		332.6		227.0	
	実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	13.2		14.1		14.1	
	すべり量 $D_a$ [m]	5.42		5.42		7.94	
	地震モーメント $M_{0a}$ [Nm]	1.02E+20		5.63E+19		5.63E+19	
ア ス ペ リ テ ィ	面積 $S_{a1}$ [km <sup>2</sup> ]	201.7	201.7	110.9	110.9	75.7	75.7
	実効応力 $\sigma_{a1}$ [MPa]	13.2	13.2	14.1	14.1	14.1	14.1
	すべり量 $D_{a1}$ [m]	6.01	6.01	6.01	6.01	8.80	8.80
	地震モーメント $M_{0a1}$ [Nm]	3.78E+19	3.78E+19	2.08E+19	2.08E+19	2.08E+19	2.08E+19
	計算用面積 [km×km]	14 × 14	14 × 14	14 × 8	14 × 8	12 × 6	12 × 6
ア ス ペ リ テ ィ	面積 $S_{a2}$ [km <sup>2</sup> ]	100.8	100.8	55.4	55.4	37.8	37.8
	実効応力 $\sigma_{a2}$ [MPa]	13.2	13.2	14.1	14.1	14.1	14.1
	すべり量 $D_{a2}$ [m]	4.25	4.25	4.25	4.25	6.22	6.22
	地震モーメント $M_{0a2}$ [Nm]	1.34E+19	1.34E+19	7.35E+18	7.35E+18	7.35E+18	7.35E+18
	計算用面積 [km×km]	10 × 10	10 × 10	10 × 6	10 × 6	6 × 6	6 × 6
背 景 領 域	面積 $S_b$ [km <sup>2</sup> ]	907.0		1179.4		805.0	
	実効応力 $\sigma_b$ [MPa]	1.6		2.7		3.3	
	すべり量 $D_b$ [m]	0.90		1.95		2.85	
	地震モーメント $M_{0b}$ [Nm]	2.56E+19		7.16E+19		7.16E+19	

※赤字：アスペクト比が2を超えたことにより平均応力降下量 3.1MPa、アスペリティ面積が断層面積の22%を仮定したモデル。このモデルは震源パラメータを示すのみであり、断層モデル図および地表震度分布図は扱わない。

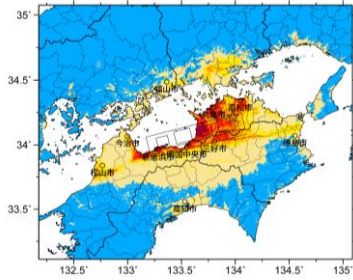
中角度



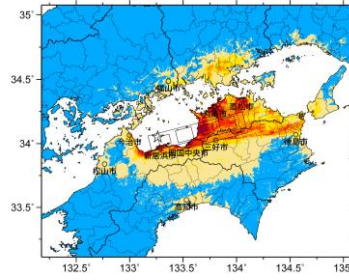
傾斜方向  
断面図

アスペリティと破壊開始点の配置図

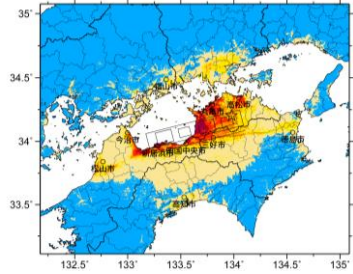




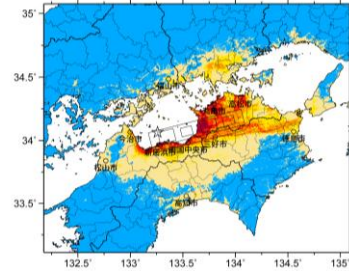
詳細法ケース 1



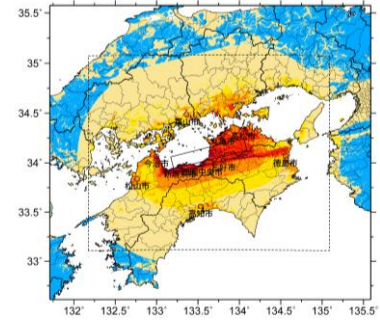
詳細法ケース 2



詳細法ケース 3

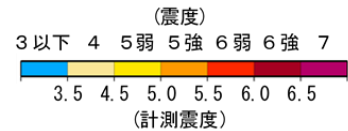


詳細法ケース 4

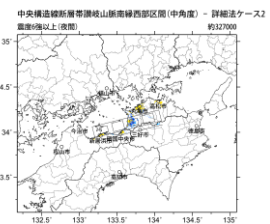
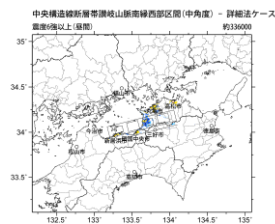
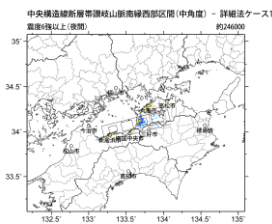
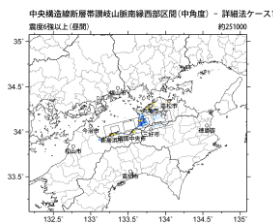
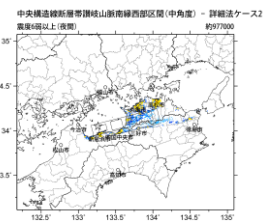
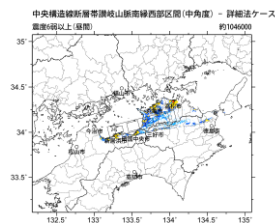
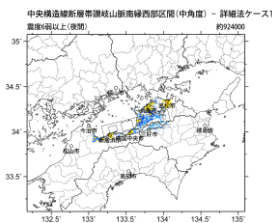
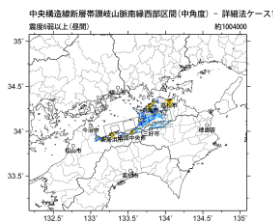


※図中の矩形は詳細法による解析範囲

簡便法

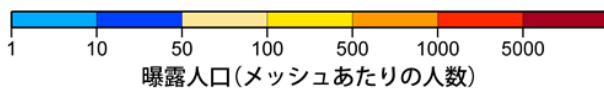


地表震度分布



詳細法ケース 1

詳細法ケース 2

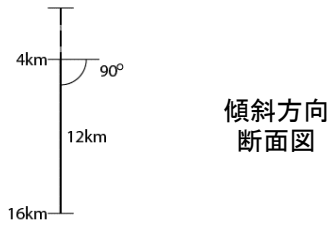
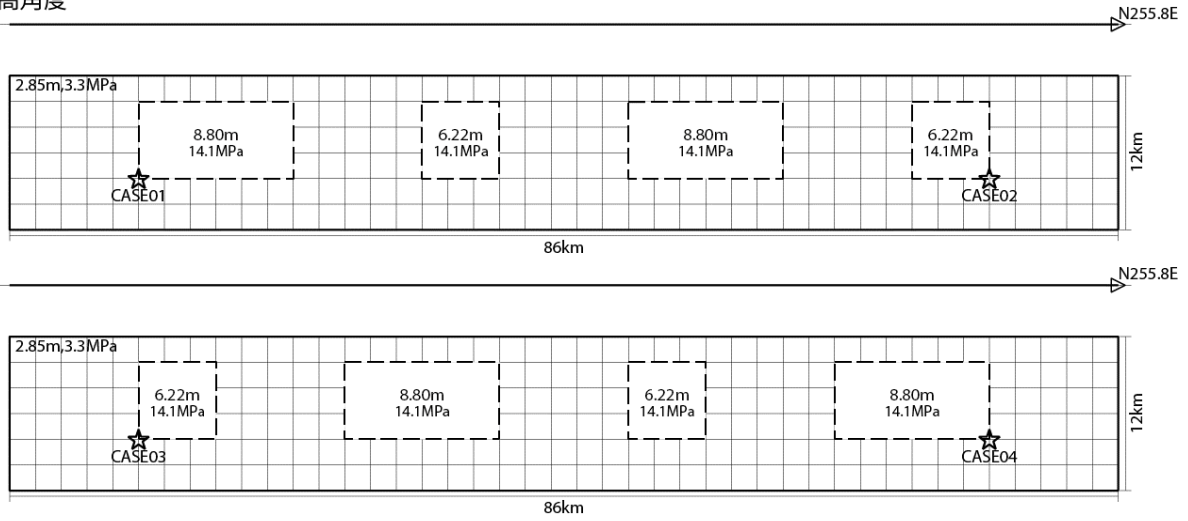


(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

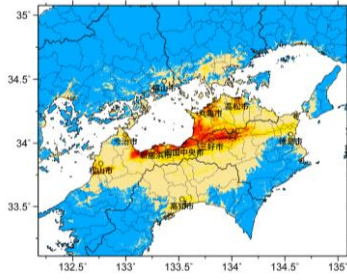
震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯讃岐山脈南縁西部区間【中角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

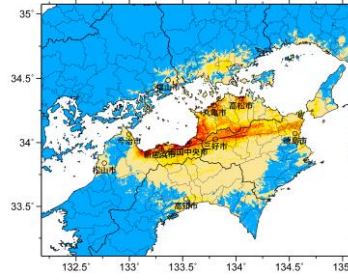
高角度



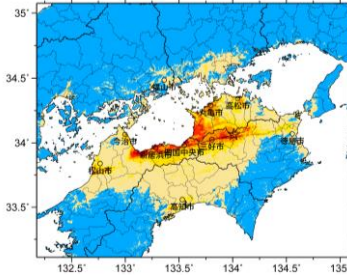
アスペリティと破壊開始点の配置図



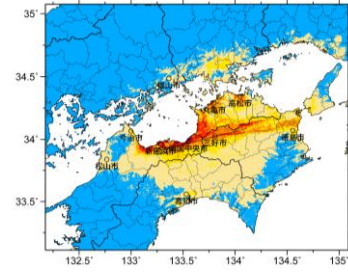
詳細法ケース 1



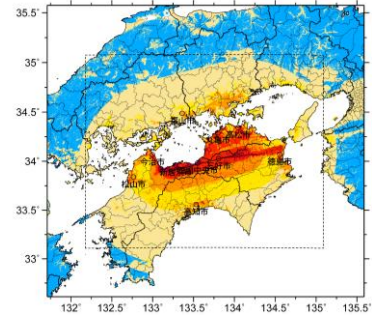
詳細法ケース 2



詳細法ケース 3

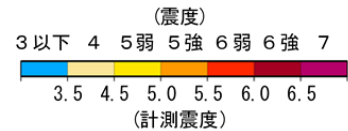


詳細法ケース 4

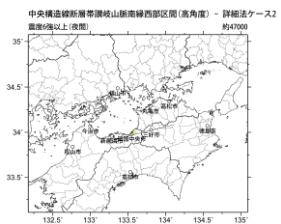
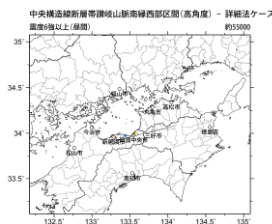
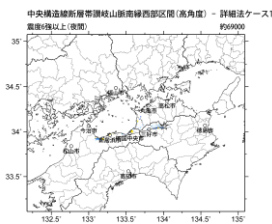
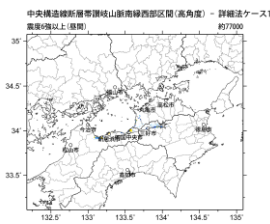
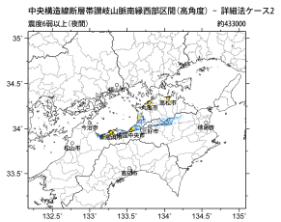
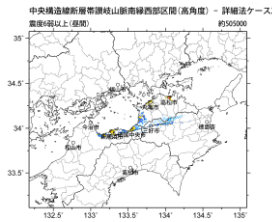
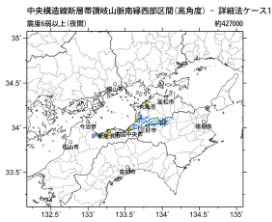
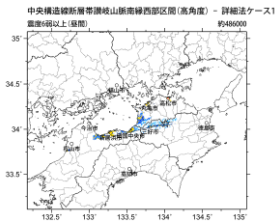


※図中の矩形は詳細法による解析範囲

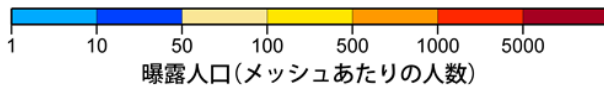
簡便法



地表震度分布



詳細法ケース 1



詳細法ケース 2

(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯讃岐山脈南縁西部区間【高角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図(シナリオ地震動予測地図)

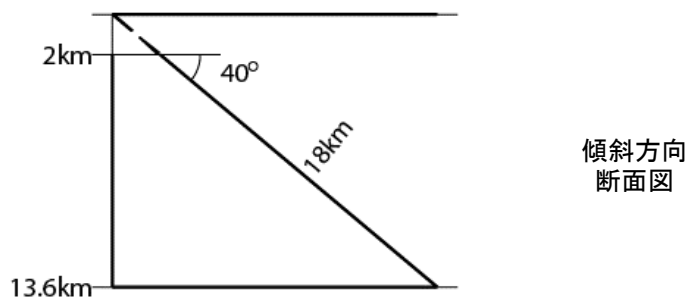
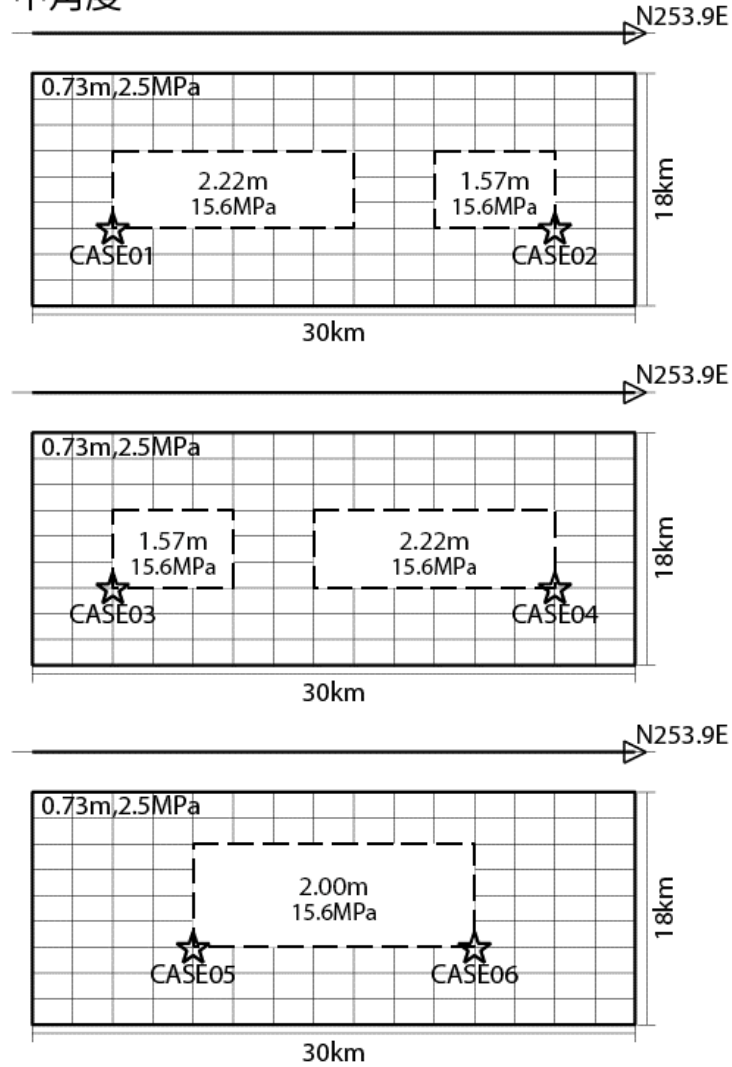
**震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）**  
**中央構造線断層帯石鎚山脈北縁区間**

強震動予測のための震源パラメータ（2018年版提示モデル）

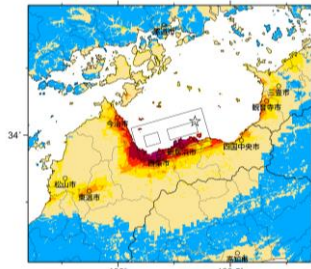
巨視的震源パラメータ		中角度		高角度			
断層長さ $L$ [km]		29		29			
地震規模 $M$		7.3		7.3			
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]		2		2			
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]		15		15			
設定手順		(イ)		(イ)		(イ)	
地震モーメント $M_0$ [Nm]		1.69E+19		1.69E+19		1.69E+19	
モーメントマグニチュード $M_w$		6.8		6.8		6.8	
断層モデル面積 $S_{\text{model}}$ [km <sup>2</sup> ]		540		476		476	
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		3.3		4.0		<b>3.1</b>	
平均すべり量 $D$ [m]		1.00		1.13		1.13	
走向 $\theta$ [度]		253.9		253.9		253.9	
傾斜角 $\delta$ [度]		40		90		90	
すべり角 $\lambda$ [度]		180		180		180	
断層モデル原点緯度 [°N]		33.9816		33.9660		33.9660	
断層モデル原点経度 [°E]		133.4120		133.4399		133.4399	
断層モデル上端深さ $D_{\text{top}}$ [km]		2		2		2	
断層モデル長さ $L_{\text{model}}$ [km]		30		34		34	
断層モデル幅 $W_{\text{model}}$ [km]		18		14		14	
微視的震源パラメータ							
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.36E+19		1.36E+19		1.18E+19	
短周期レベル (参照) $A_{\text{Dan}}$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.36E+19		1.36E+19		1.36E+19	
全 ア ス ペ ク ト 比	面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	113.6		128.8		<b>104.7</b>	
	実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	15.6		14.6		14.1	
	すべり量 $D_a$ [m]	2.00		2.27		2.27	
	地震モーメント $M_{0a}$ [Nm]	7.09E+18		9.12E+18		7.42E+18	
ア ス ペ リ テ ィ	面積 $S_{a1}$ [km <sup>2</sup> ]	75.7	113.6	85.9	128.8	69.8	104.7
	実効応力 $\sigma_{a1}$ [MPa]	15.6	15.6	14.6	14.6	14.1	14.1
	すべり量 $D_{a1}$ [m]	2.22	2.00	2.51	2.27	2.51	2.27
	地震モーメント $M_{0a1}$ [Nm]	5.24E+18	7.09E+18	6.74E+18	9.12E+18	5.48E+18	7.42E+18
	計算用面積 [km×km]	12 × 6	14 × 8	10 × 8	16 × 8	12 × 6	10 × 10
ア ス ペ リ テ ィ	面積 $S_{a2}$ [km <sup>2</sup> ]	37.9	—	42.9	—	34.9	—
	実効応力 $\sigma_{a2}$ [MPa]	15.6	—	14.6	—	14.1	—
	すべり量 $D_{a2}$ [m]	1.57	—	1.78	—	1.78	—
	地震モーメント $M_{0a2}$ [Nm]	1.85E+18	—	2.38E+18	—	1.94E+18	—
	計算用面積 [km×km]	6 × 6	—	8 × 6	—	6 × 6	—
背 景 領 域	面積 $S_b$ [km <sup>2</sup> ]	426.4	426.4	347.2	347.2	371.3	371.3
	実効応力 $\sigma_b$ [MPa]	2.5	2.5	2.7	2.6	2.7	3.6
	すべり量 $D_b$ [m]	0.73	0.73	0.71	0.71	0.81	0.81
	地震モーメント $M_{0b}$ [Nm]	9.76E+18	9.76E+18	7.73E+18	7.73E+18	9.44E+18	9.44E+18

※赤字：アスペクト比が2を超えたことにより平均応力降下量 3.1MPa、アスペリティ面積が断層面積の22%を仮定したモデル。このモデルは震源パラメータを示すのみであり、断層モデル図および地表震度分布図は扱わない。

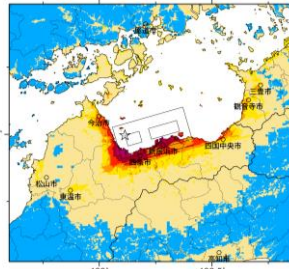
中角度



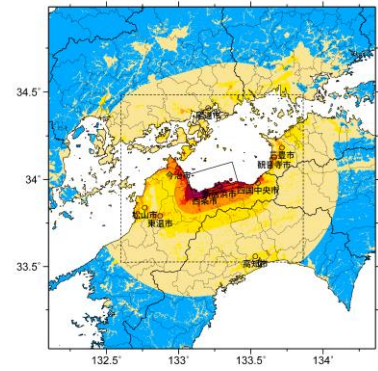
アスペリティと破壊開始点の配置図



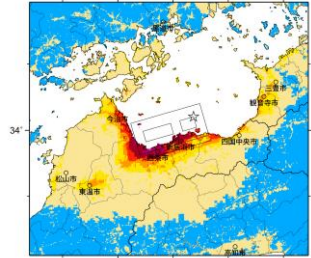
詳細法ケース 1



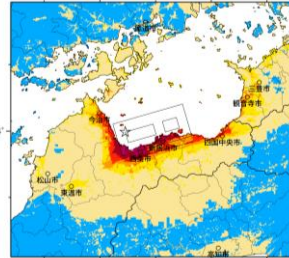
詳細法ケース 2



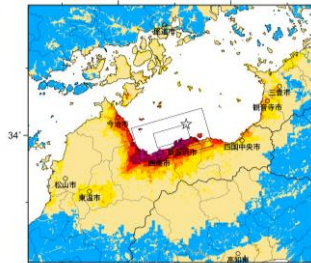
※図中の矩形は詳細法による解析範囲  
簡便法



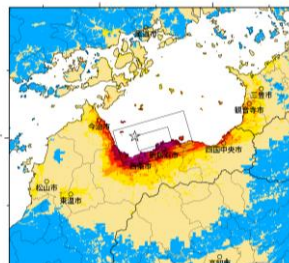
詳細法ケース 3



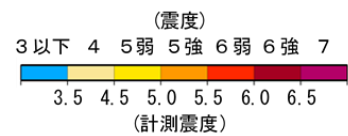
詳細法ケース 4



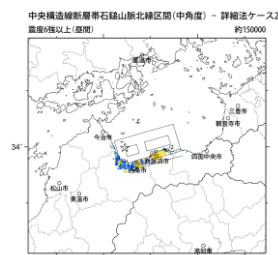
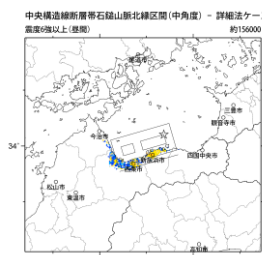
詳細法ケース 5



詳細法ケース 6

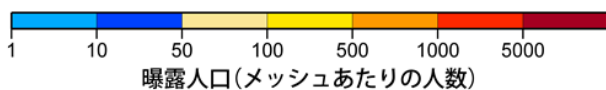


地表震度分布



詳細法ケース 1

詳細法ケース 2

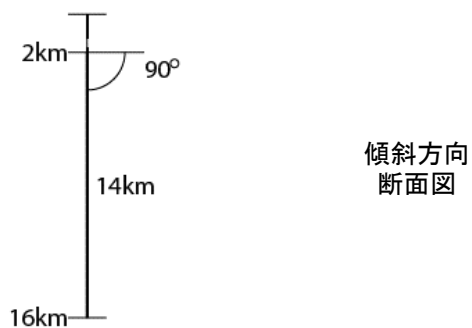
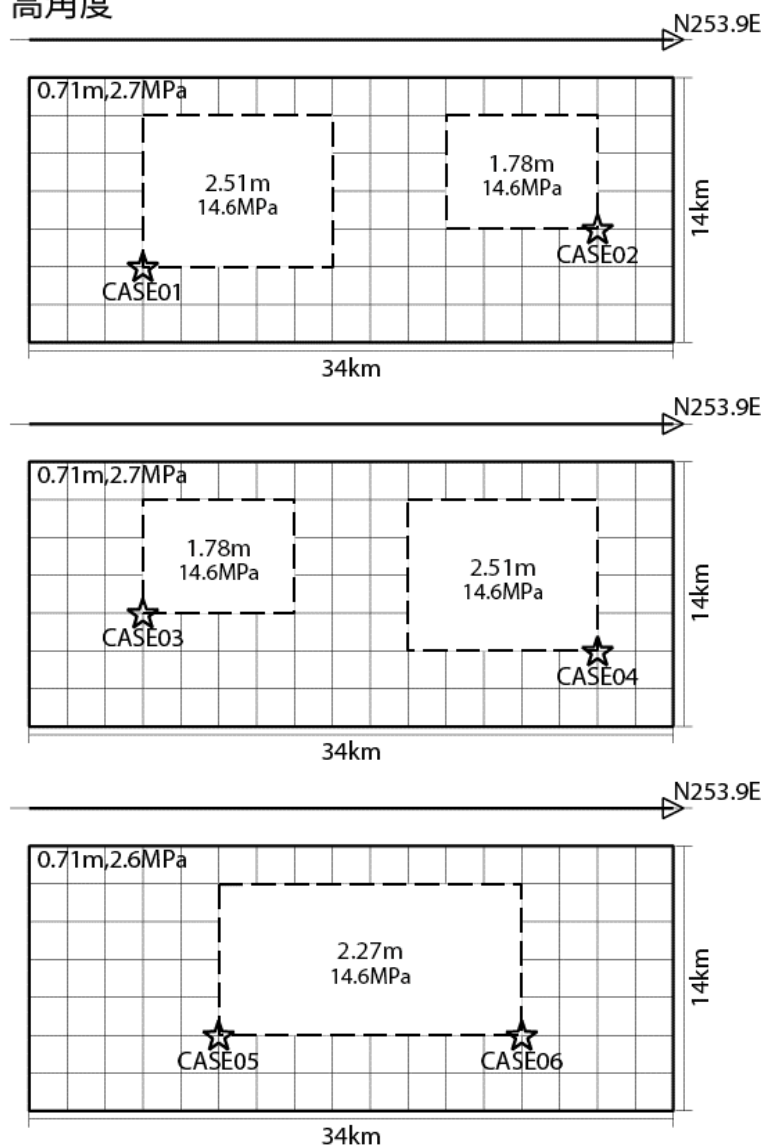


(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

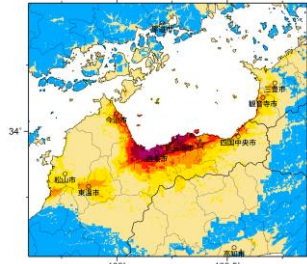
震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯石鎚山脈北縁区間【中角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図(シナリオ地震動予測地図)

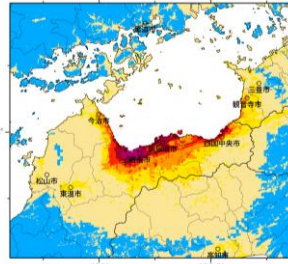
高角度



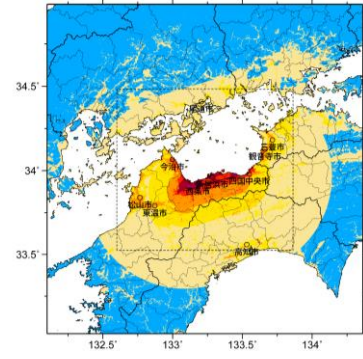
アスペリティと破壊開始点の配置図



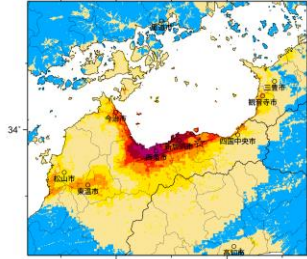
詳細法ケース 1



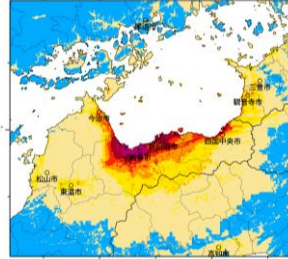
詳細法ケース 2



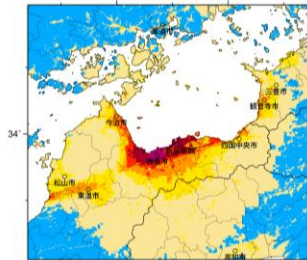
※図中の矩形は詳細法による解析範囲  
簡便法



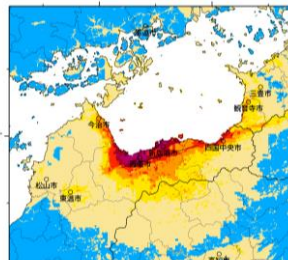
詳細法ケース 3



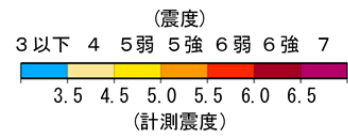
詳細法ケース 4



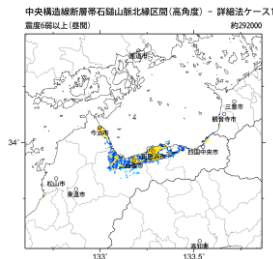
詳細法ケース 5



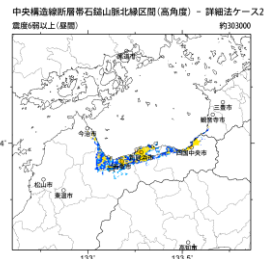
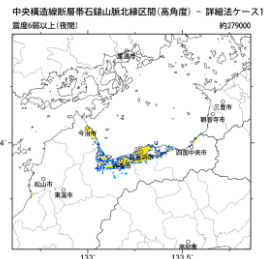
詳細法ケース 6



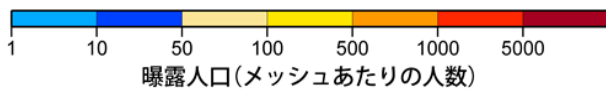
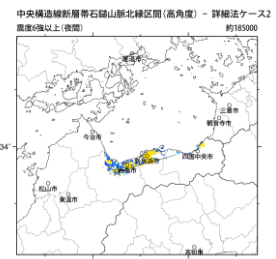
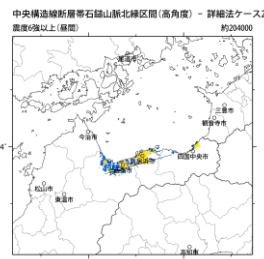
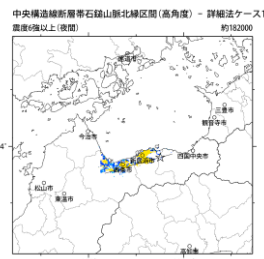
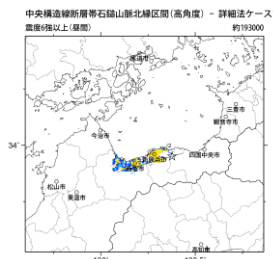
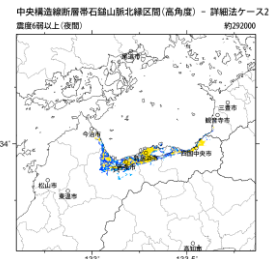
地表震度分布



詳細法ケース 1



詳細法ケース 2



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯石鎚山脈北縁区間【高角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図(シナリオ地震動予測地図)



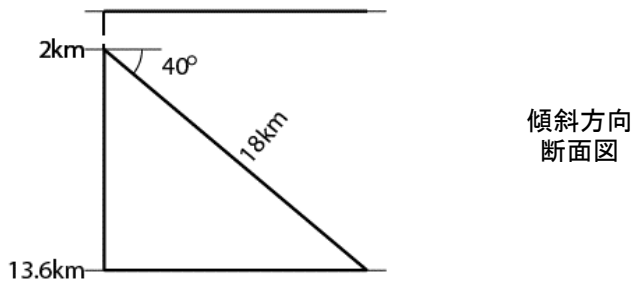
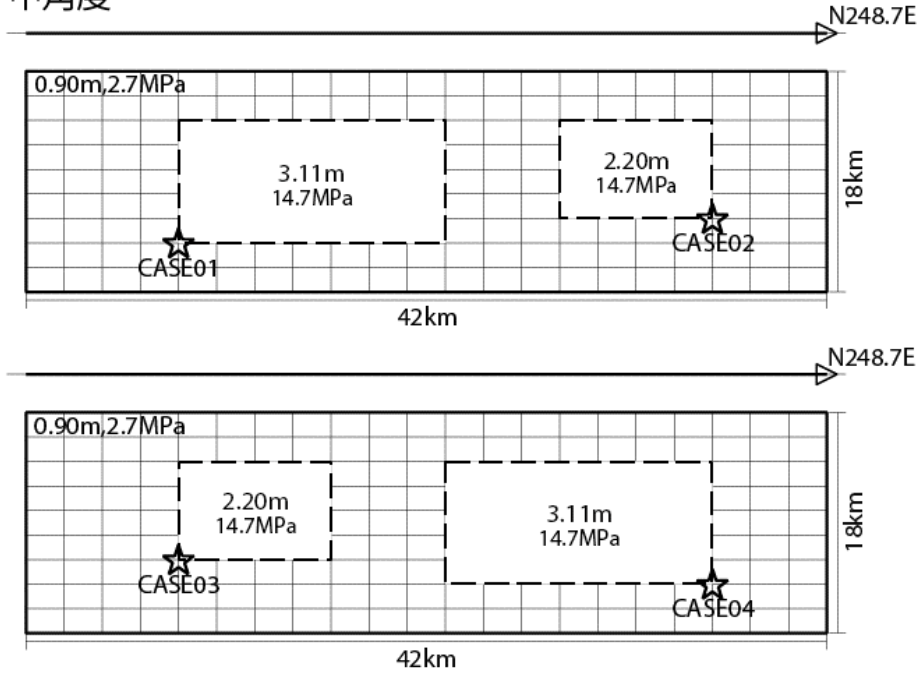
**震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）**  
**中央構造線断層帯石鎚山脈北縁西部区間**

強震動予測のための震源パラメータ（2018年版提示モデル）

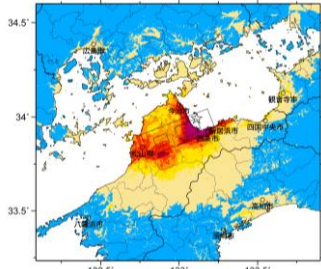
巨視的震源パラメータ		中角度		高角度	
断層長さ $L$ [km]		41		41	
地震規模 $M$		7.5		7.5	
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]		2		2	
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]		15		15	
設定手順		(イ)	(イ)	(イ)	(イ)
地震モーメント $M_0$ [Nm]		3.31E+19	3.31E+19	3.31E+19	3.31E+19
モーメントマグニチュード $M_w$		6.9	6.9	6.9	6.9
断層モデル面積 $S_{\text{model}}$ [km <sup>2</sup> ]		756	756	644	644
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		3.9	<b>3.1</b>	4.9	<b>3.1</b>
平均すべり量 $D$ [m]		1.40	1.40	1.65	1.65
走向 $\theta$ [度]		248.7	248.7	248.7	248.7
傾斜角 $\delta$ [度]		40	40	90	90
すべり角 $\lambda$ [度]		180	180	180	180
断層モデル原点緯度 [°N]		33.9276	33.9276	33.9342	33.9342
断層モデル原点経度 [°E]		133.2345	133.2345	133.4399	133.4399
断層モデル上端深さ $D_{\text{top}}$ [km]		2	2	2	2
断層モデル長さ $L_{\text{model}}$ [km]		42	42	46	46
断層モデル幅 $W_{\text{model}}$ [km]		18	18	14	14
微視的震源パラメータ					
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.70E+19	1.49E+19	1.70E+19	1.37E+19
短周期レベル（参照） $A_{\text{Dan}}$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.70E+19	1.70E+19	1.70E+19	1.70E+19
全 ア ス ペ リ テ ィ	面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	199.6	<b>166.3</b>	234.3	<b>141.7</b>
	実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	14.7	14.1	13.6	14.1
	すべり量 $D_a$ [m]	2.81	2.81	3.29	3.29
	地震モーメント $M_{0a}$ [Nm]	1.75E+19	1.46E+19	2.41E+19	1.46E+19
ア ス ペ リ テ ィ 1	面積 $S_{a1}$ [km <sup>2</sup> ]	133.0	110.9	156.2	94.5
	実効応力 $\sigma_{a1}$ [MPa]	14.7	14.1	13.6	14.1
	すべり量 $D_{a1}$ [m]	3.11	3.11	3.65	3.65
	地震モーメント $M_{0a1}$ [Nm]	1.29E+19	1.08E+19	1.78E+19	1.08E+19
	計算用面積 [km×km]	14 × 10	14 × 8	16 × 10	12 × 8
ア ス ペ リ テ ィ 2	面積 $S_{a2}$ [km <sup>2</sup> ]	66.5	55.4	78.1	47.2
	実効応力 $\sigma_{a2}$ [MPa]	14.7	14.1	13.6	14.1
	すべり量 $D_{a2}$ [m]	2.20	2.20	2.58	2.58
	地震モーメント $M_{0a2}$ [Nm]	4.57E+18	3.81E+18	6.29E+18	3.81E+18
	計算用面積 [km×km]	8 × 8	10 × 6	10 × 8	8 × 6
背 景 領 域	面積 $S_b$ [km <sup>2</sup> ]	556.4	589.7	409.7	502.3
	実効応力 $\sigma_b$ [MPa]	2.7	2.7	2.3	3.2
	すべり量 $D_b$ [m]	0.90	1.01	0.71	1.18
	地震モーメント $M_{0b}$ [Nm]	1.56E+19	1.85E+19	9.02E+18	1.85E+19

※赤字：アスペクト比が2を超えたことにより平均応力降下量 3.1MPa、アスペリティ面積が断層面積の22%を仮定したモデル。このモデルは震源パラメータを示すのみであり、断層モデル図および地表震度分布図は扱わない。

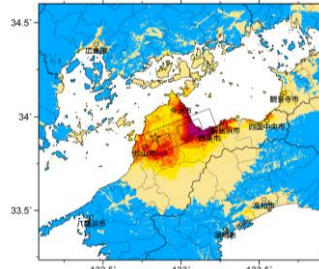
中角度



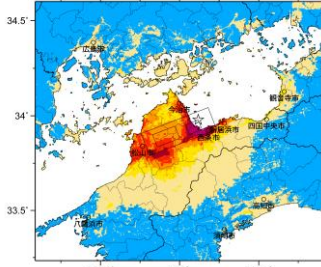
アスペリティと破壊開始点の配置図



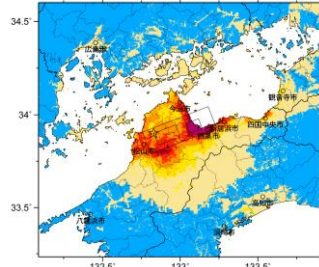
詳細法ケース 1



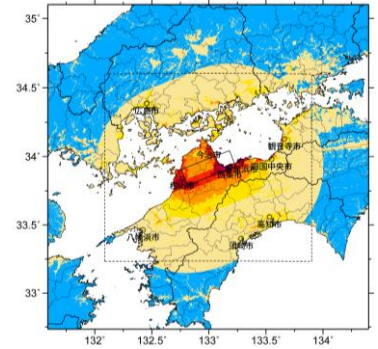
詳細法ケース 2



詳細法ケース 3

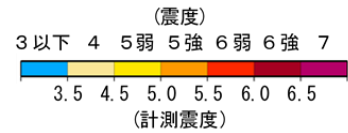


詳細法ケース 4

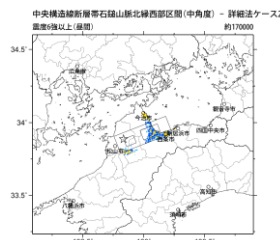
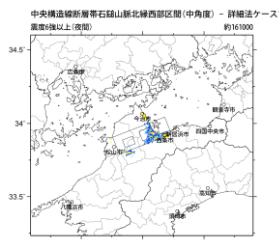
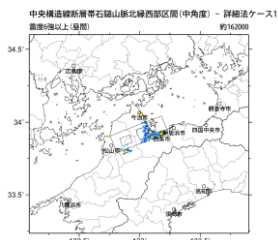
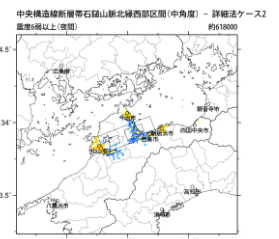
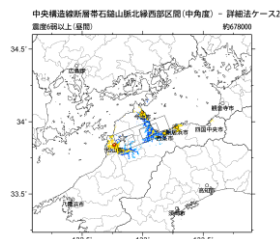
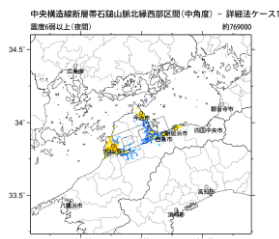
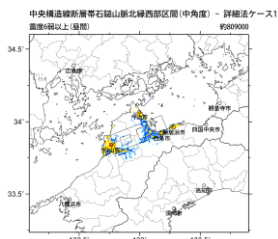


※図中の矩形は詳細法による解析範囲

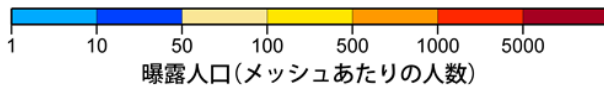
簡便法



地表震度分布



詳細法ケース 1



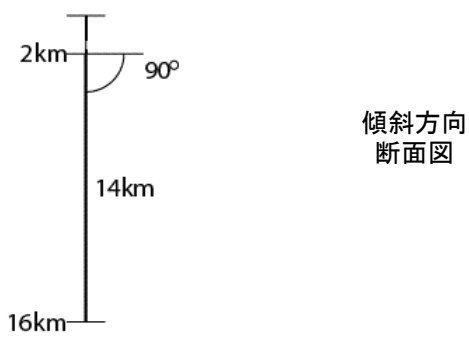
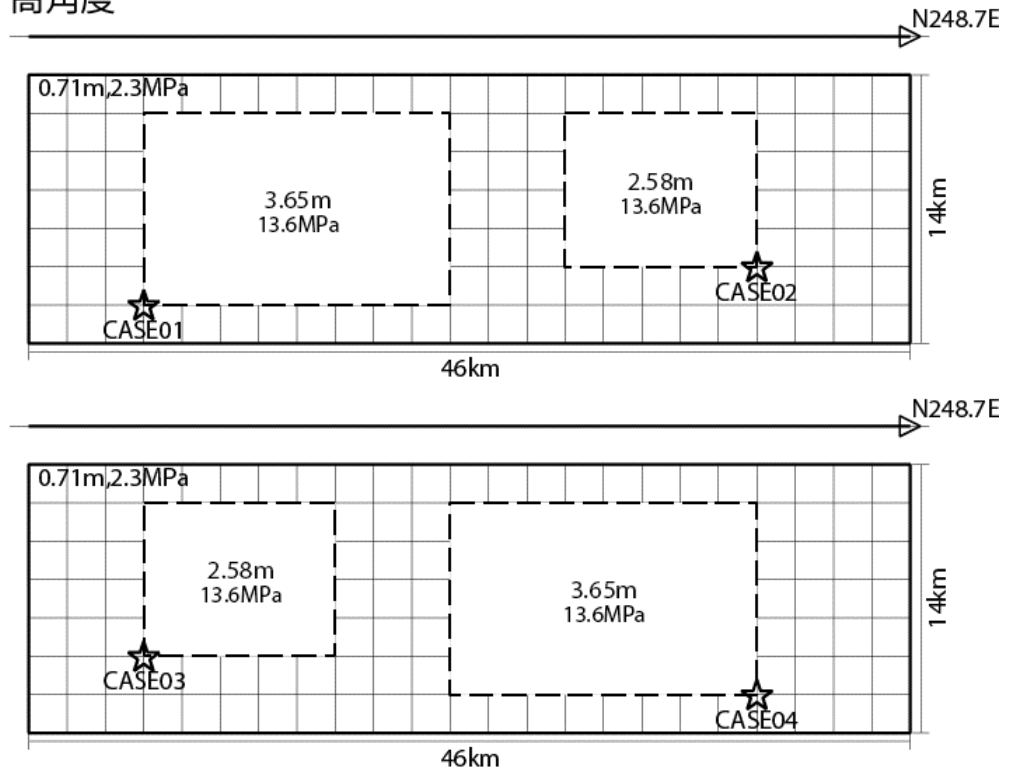
詳細法ケース 2

(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

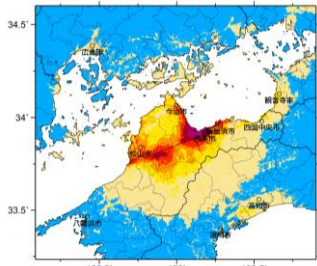
震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯石鎚山脈北縁西部区間【中角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図(シナリオ地震動予測地図)

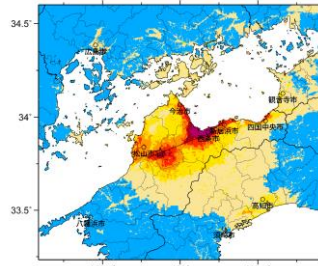
高角度



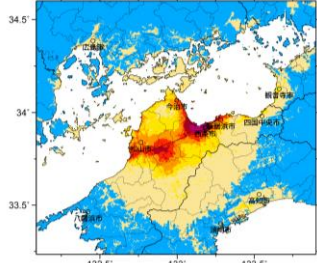
アスペリティと破壊開始点の配置図



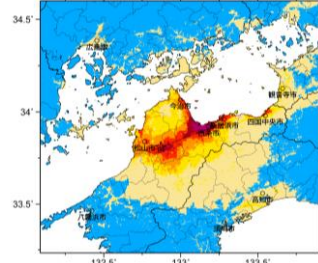
詳細法ケース 1



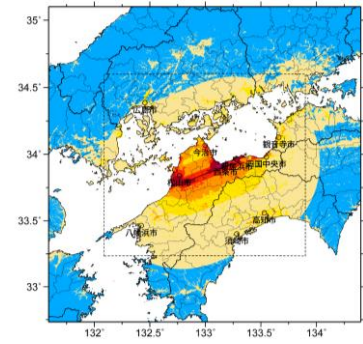
詳細法ケース 2



詳細法ケース 3

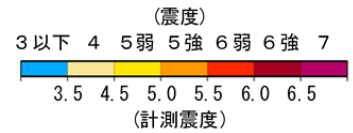


詳細法ケース 4

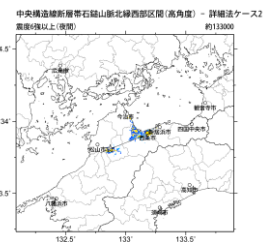
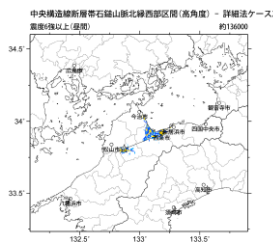
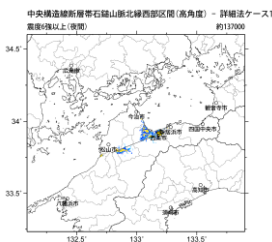
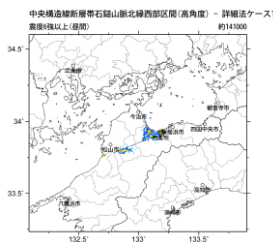
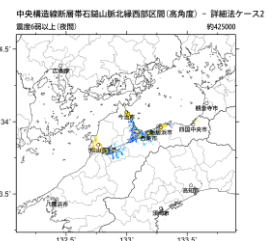
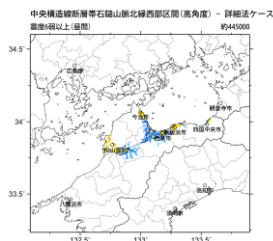
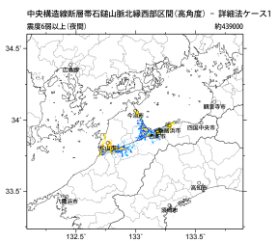
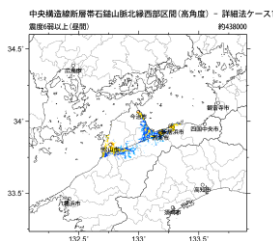


※図中の矩形は詳細法による解析範囲

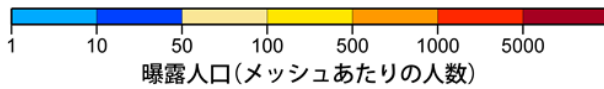
簡便法



地表震度分布



詳細法ケース 1



詳細法ケース 2

(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯石鎚山脈北縁西部区間【高角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図(シナリオ地震動予測地図)

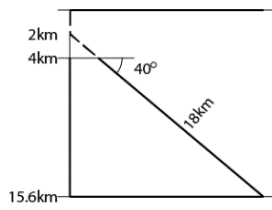
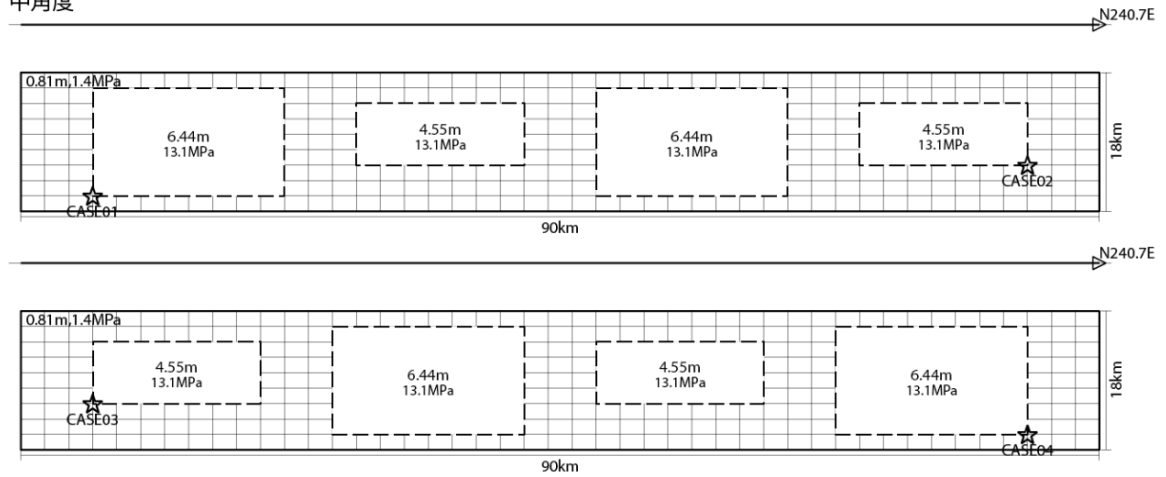
**震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）**  
**中央構造線断層帯伊予灘区間**

強震動予測のための震源パラメータ（2018年版提示モデル）

巨視的震源パラメータ		中角度				高角度	
断層長さ $L$ [km]		88				88	
地震規模 $M$		8.1				8.1	
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]		4				4	
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]		15				15	
設定手順		(イ)		(イ)		(イ)	
地震モーメント $M_0$ [Nm]		1.47E+20		1.47E+20		1.47E+20	
モーメントマグニチュード $M_w$		7.4		7.4		7.4	
断層モデル面積 $S_{model}$ [km <sup>2</sup> ]		1620		1620		1104	
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		5.5		3.1		3.1	
平均すべり量 $D$ [m]		2.90		2.90		4.26	
走向 $\theta$ [度]		240.7		240.7		240.7	
傾斜角 $\delta$ [度]		40		40		90	
すべり角 $\lambda$ [度]		180		180		180	
断層モデル原点緯度 [°N]		33.7935		33.7935		33.7792	
断層モデル原点経度 [°E]		132.7826		132.7826		132.8046	
断層モデル上端深さ $D_{top}$ [km]		4		4		4	
断層モデル長さ $L_{model}$ [km]		90		90		92	
断層モデル幅 $W_{model}$ [km]		18		18		12	
微視的震源パラメータ							
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		2.80E+19		2.18E+19		1.80E+19	
短周期レベル（参照） $A_{Dan}$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		2.80E+19		2.80E+19		2.80E+19	
全 リ テ ィ ス ペ ィ	面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	678.5		356.4		242.9	
	実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	13.1		14.1		14.1	
	すべり量 $D_a$ [m]	5.81		5.81		8.52	
	地震モーメント $M_{0a}$ [Nm]	1.23E+20		6.46E+19		6.46E+19	
ア ス ペ ィ リ テ ィ	面積 $S_{a1}$ [km <sup>2</sup> ]	226.2	226.2	118.8	118.8	81.0	81.0
	実効応力 $\sigma_{a1}$ [MPa]	13.1	13.1	14.1	14.1	14.1	14.1
	すべり量 $D_{a1}$ [m]	6.44	6.44	6.44	6.44	9.44	9.44
	地震モーメント $M_{0a1}$ [Nm]	4.54E+19	4.54E+19	2.39E+19	2.39E+19	2.39E+19	2.39E+19
	計算用面積 [km×km]	16 × 14	16 × 14	12 × 10	12 × 10	10 × 8	10 × 8
ア ス ペ ィ リ テ ィ	面積 $S_{a2}$ [km <sup>2</sup> ]	113.1	113.1	59.4	59.4	40.5	40.5
	実効応力 $\sigma_{a2}$ [MPa]	13.1	13.1	14.1	14.1	14.1	14.1
	すべり量 $D_{a2}$ [m]	4.55	4.55	4.55	4.55	6.68	6.68
	地震モーメント $M_{0a2}$ [Nm]	1.61E+19	1.61E+19	8.44E+18	8.44E+18	8.44E+18	8.44E+18
	計算用面積 [km×km]	14 × 8	14 × 8	10 × 6	10 × 6	6 × 6	6 × 6
背 景 領 域	面積 $S_b$ [km <sup>2</sup> ]	941.5		1263.6		861.1	
	実効応力 $\sigma_b$ [MPa]	1.4		2.8		3.4	
	すべり量 $D_b$ [m]	0.81		2.08		3.06	
	地震モーメント $M_{0b}$ [Nm]	2.38E+19		8.22E+19		8.22E+19	

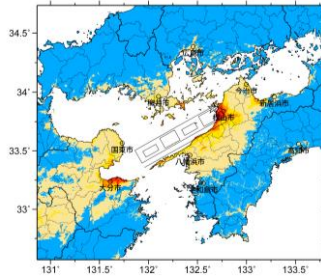
※赤字：アスペクト比が2を超えたことにより平均応力降下量 3.1MPa、アスペリティ面積が断層面積の22%を仮定したモデル。このモデルは震源パラメータを示すのみであり、断層モデル図および地表震度分布図は扱わない。

中角度

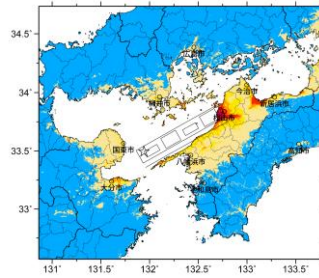


傾斜方向  
断面図

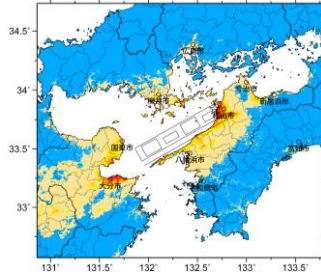
アスペリティと破壊開始点の配置図



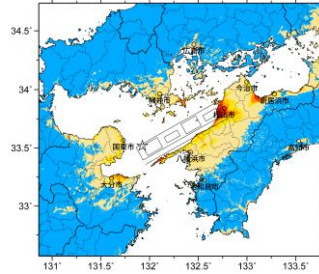
詳細法ケース 1



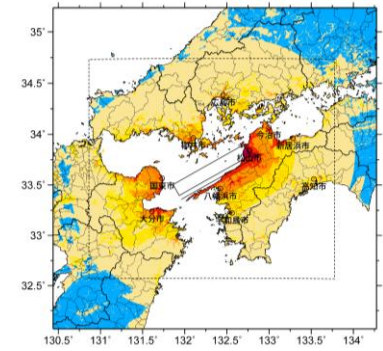
詳細法ケース 2



詳細法ケース 3

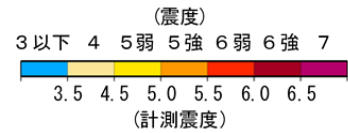


詳細法ケース 4

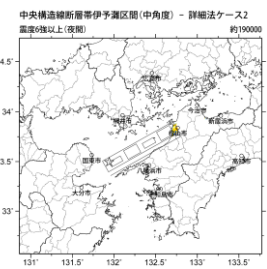
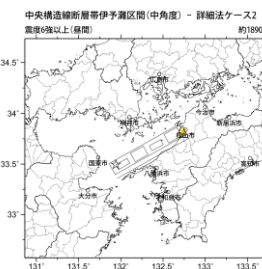
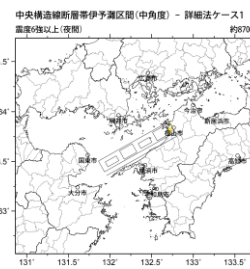
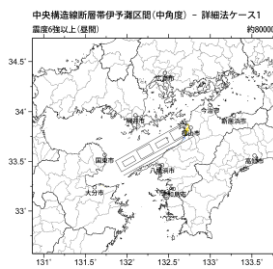
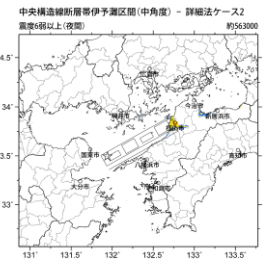
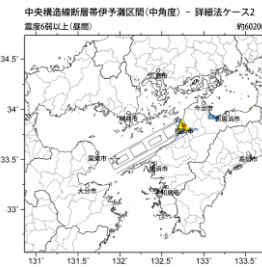
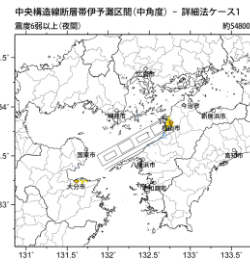
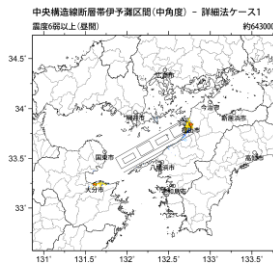


※図中の矩形は詳細法による解析範囲

簡便法

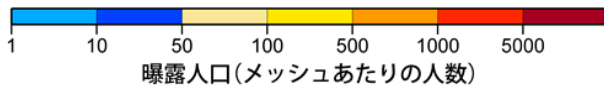


地表震度分布



詳細法ケース 1

詳細法ケース 2



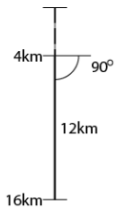
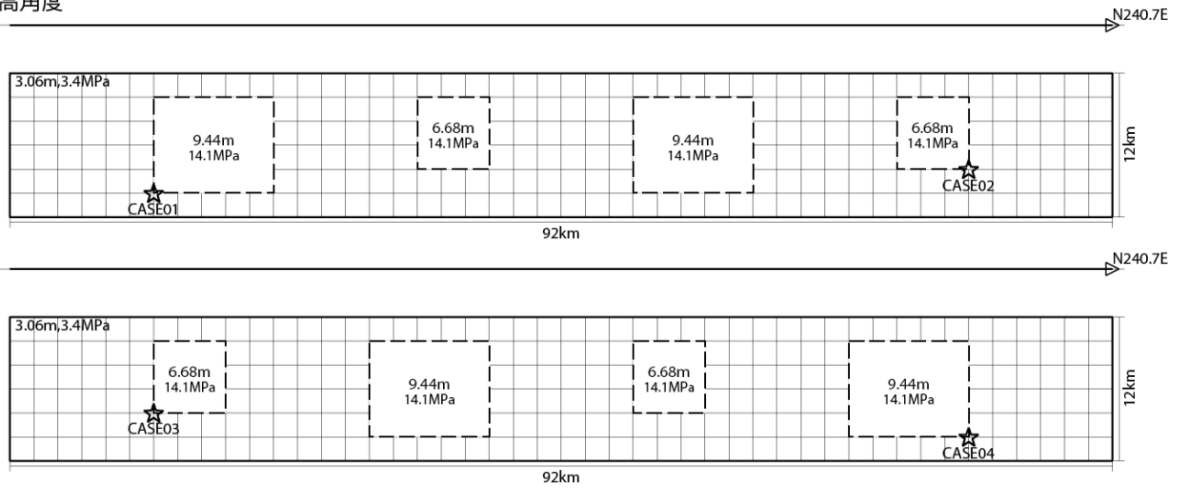
(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯伊予灘区間【中角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図(シナリオ地震動予測地図)

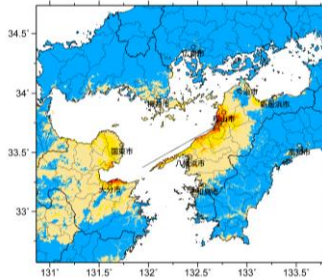


高角度

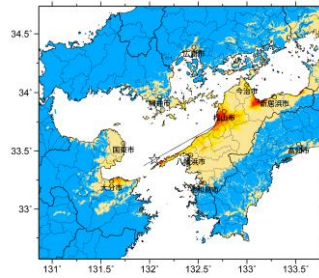


傾斜方向  
断面図

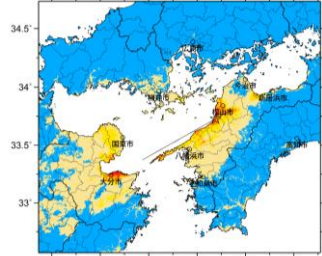
アスペリティと破壊開始点の配置図



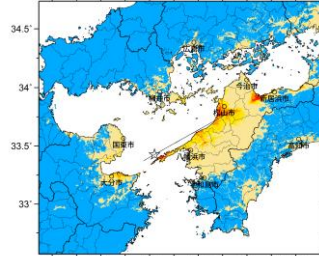
詳細法ケース 1



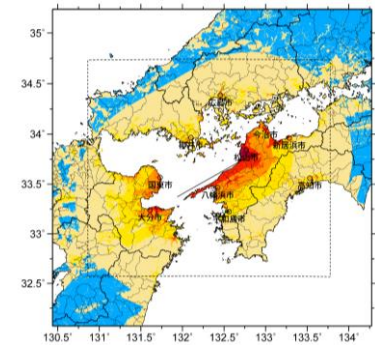
詳細法ケース 2



詳細法ケース 3

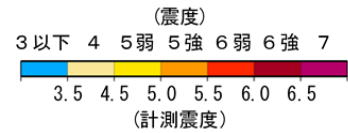


詳細法ケース 4

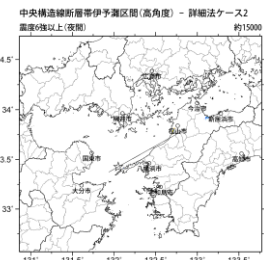
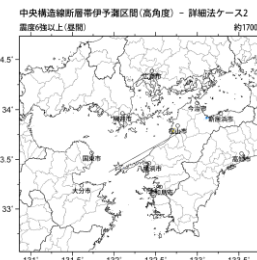
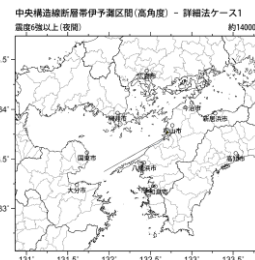
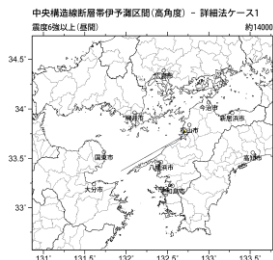
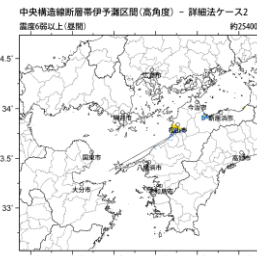
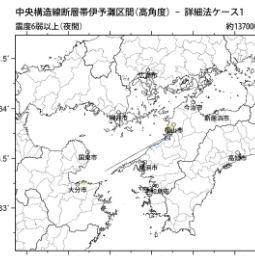
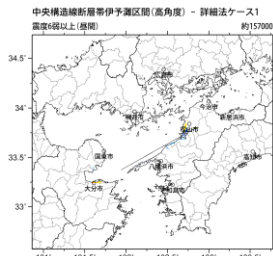


※図中の矩形は詳細法による解析範囲

簡便法

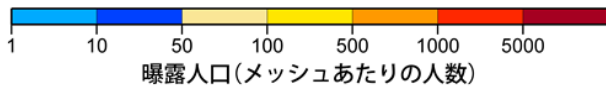


地表震度分布



詳細法ケース 1

詳細法ケース 2



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯伊予灘区間【高角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図(シナリオ地震動予測地図)

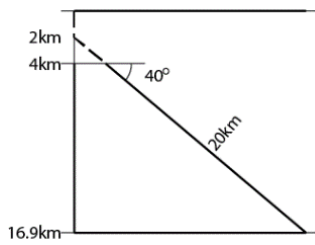
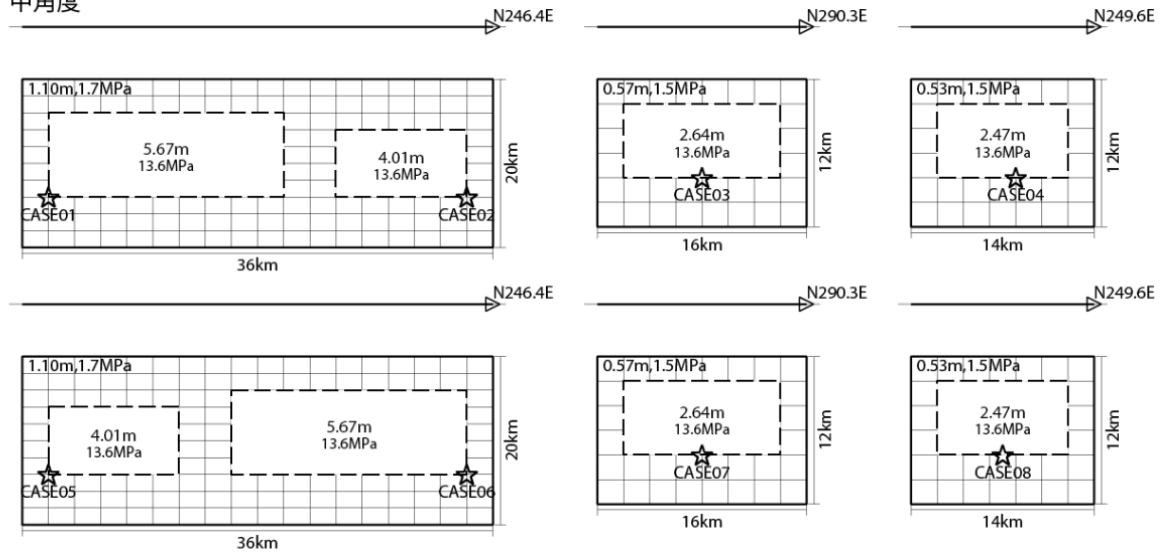
**震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）**  
**中央構造線断層帯豊予海峡－由布院区間**

強震動予測のための震源パラメータ（2018年版提示モデル）

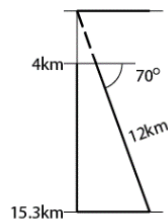
巨視的震源パラメータ		中角度						高角度		
断層長さ $L$ [km]		61						61		
地震規模 $M$		7.8						7.8		
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]		4						4		
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]		15						15		
設定手順		(イ)						(イ)		
地震モーメント $M_0$ [Nm]		7.18E+19			7.18E+19			7.18E+19		
モーメントマグニチュード $M_w$		7.2			7.2			7.2		
断層モデル総面積 $S_{model}$ [km <sup>2</sup> ]		1080			1080			792		
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		4.9			3.1			3.1		
平均すべり量 $D$ [m]		2.13			2.13			2.91		
セグメント										
走向 $\theta$ [度]		246.4	290.3	249.6	246.4	290.3	249.6	246.4	290.3	249.6
傾斜角 $\delta$ [度]		40	70	70	40	70	70	90	70	70
すべり角 $\epsilon$ [度]		180	-90	-90	180	-90	-90	180	-90	-90
断層モデル原点緯度 [°N]		33.3816	33.2456	33.2960	33.3816	33.2456	33.2960	33.3619	33.2456	33.2960
断層モデル原点経度 [°E]		131.9633	131.6304	131.4591	131.9633	131.6304	131.4591	131.9736	131.6304	131.4591
断層モデル上端深さ $D_{top}$ [km]		4	4	4	4	4	4	4	4	4
セグメント長さ $L_{model\ seg}$ [km]		36	16	14	36	16	14	36	16	14
セグメント幅 $W_{model\ seg}$ [km]		20	12	12	20	12	12	12	12	12
セグメント面積 $S_{model\ seg}$ [km <sup>2</sup> ]		720	192	168	720	192	168	432	192	168
セグメント地震モーメント $M_{0seg}$ [Nm]		5.75E+19	7.91E+18	6.48E+18	5.75E+19	7.91E+18	6.48E+18	4.67E+19	1.38E+19	1.13E+19
セグメント平均すべり量 $D_{seg}$ [m]		2.56	1.32	1.24	2.56	1.32	1.24	3.46	2.31	2.16
微視的震源パラメータ										
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		2.20E+19			1.78E+19			1.52E+19		
短周期レベル (参照) $A_{Dan}$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		2.20E+19			2.20E+19			2.20E+19		
全アスペリティ	総面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	392.5			237.6			174.2		
	実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	13.6			14.1			14.1		
	面積 $S_{a\ seg}$ [km <sup>2</sup> ]	261.7	69.8	61.1	158.4	42.2	37.0	95.0	42.2	37.0
	すべり量 $D_{a\ seg}$ [m]	5.11	2.64	2.47	5.11	2.64	2.47	6.93	4.62	4.32
	地震モーメント $M_{0a\ seg}$ [Nm]	4.18E+19	5.75E+18	4.71E+18	2.53E+19	3.48E+18	2.85E+18	2.05E+19	6.09E+18	4.98E+18
1アスペリティ	面積 $S_{a1\ seg}$ [km <sup>2</sup> ]	174.4	69.8	61.1	105.6	42.2	37.0	63.4	42.2	37.0
	実効応力 $\sigma_{a1\ seg}$ [MPa]	13.6	13.6	13.6	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1
	すべり量 $D_{a1\ seg}$ [m]	5.67	2.64	2.47	5.67	2.64	2.47	7.67	4.62	4.32
	地震モーメント $M_{0a1\ seg}$ [Nm]	3.09E+19	5.75E+18	4.71E+18	1.87E+19	3.48E+18	2.85E+18	1.52E+19	6.09E+18	4.98E+18
	計算用面積 [km×km]	18 × 10	12 × 6	10 × 6	10 × 10	8 × 6	6 × 6	8 × 8	8 × 6	6 × 6
2アスペリティ	面積 $S_{a2\ seg}$ [km <sup>2</sup> ]	87.2	—	—	52.8	—	—	31.7	—	—
	実効応力 $\sigma_{a2\ seg}$ [MPa]	13.6	—	—	14.1	—	—	14.1	—	—
	すべり量 $D_{a2\ seg}$ [m]	4.01	—	—	4.01	—	—	5.43	—	—
	地震モーメント $M_{0a2\ seg}$ [Nm]	1.09E+19	—	—	6.60E+18	—	—	5.37E+18	—	—
	計算用面積 [km×km]	10 × 8	—	—	8 × 6	—	—	8 × 4	—	—
背景領域	面積 $S_b$ [km <sup>2</sup> ]	458.3	122.2	106.9	561.6	149.8	131.0	337.0	149.8	131.0
	実効応力 $\sigma_b$ [MPa]	1.7	1.5	1.5	2.3	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5
	すべり量 $D_b$ [m]	1.10	0.57	0.53	1.84	0.95	0.89	2.49	1.66	1.55
	地震モーメント $M_{0b\ seg}$ [Nm]	1.57E+19	2.16E+18	1.77E+18	3.22E+19	4.43E+18	3.63E+18	2.61E+19	7.75E+18	6.34E+18

※赤字：アスペクト比が2を超えたことにより平均応力降下量 3.1MPa、アスペリティ面積が断層面積の22%を仮定したモデル。このモデルは震源パラメータを示すのみであり、断層モデル図および地表震度分布図は扱わない。

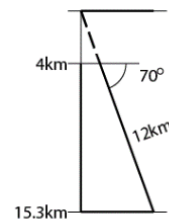
中角度



傾斜方向  
断面図

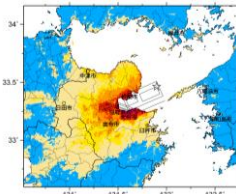


傾斜方向  
断面図

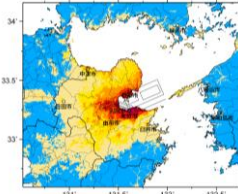


傾斜方向  
断面図

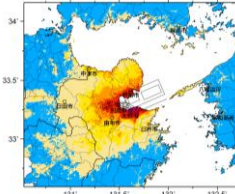
アスペリティと破壊開始点の配置図



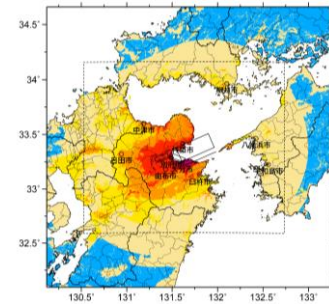
詳細法ケース 1



詳細法ケース 2

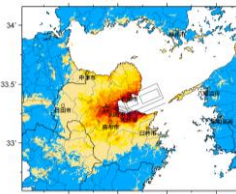


詳細法ケース 3

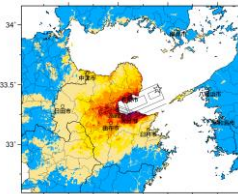


※図中の矩形は詳細法による  
解析範囲

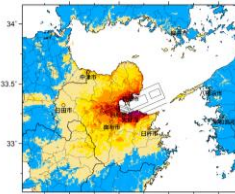
簡便法



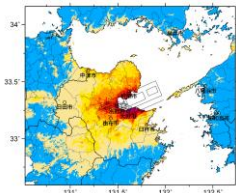
詳細法ケース 4



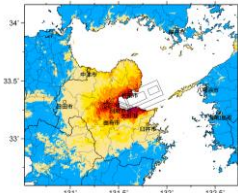
詳細法ケース 5



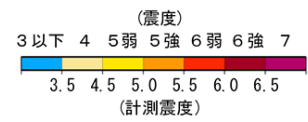
詳細法ケース 6



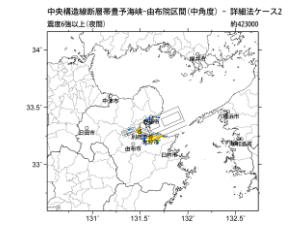
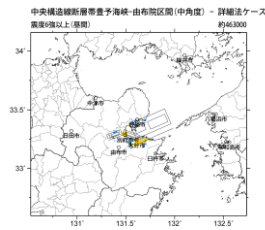
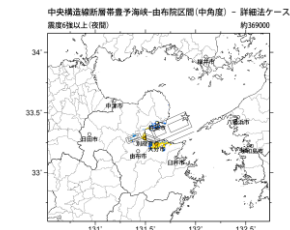
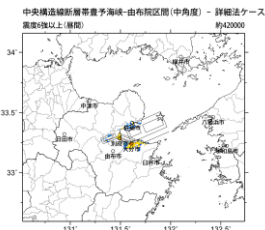
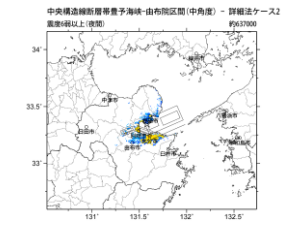
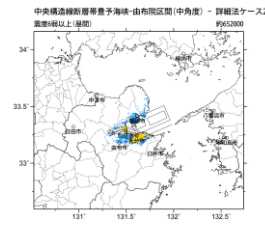
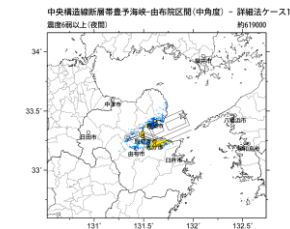
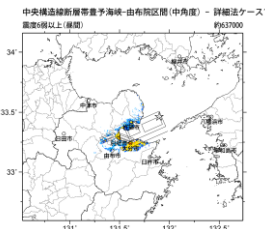
詳細法ケース 7



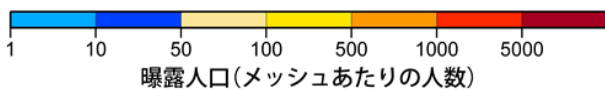
詳細法ケース 8



地表震度分布



詳細法ケース 1



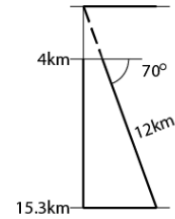
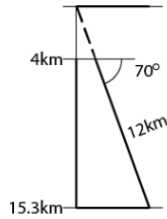
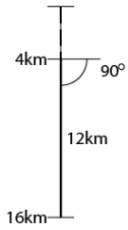
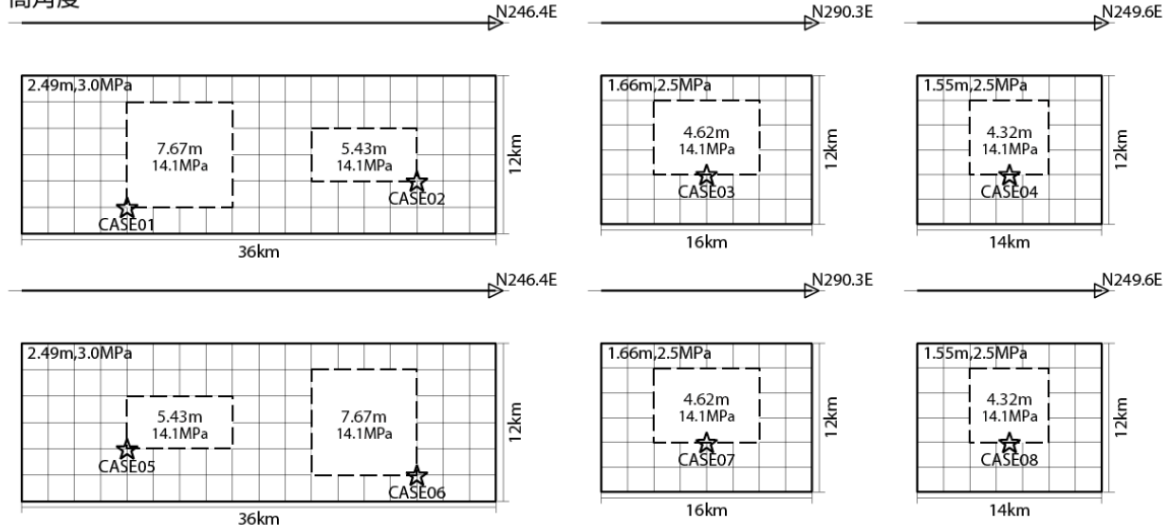
詳細法ケース 2

(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

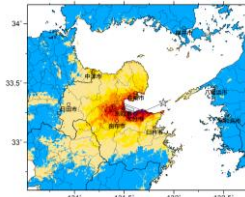
震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯豊予海峡-由布院区間【中角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図(シナリオ地震動予測地図)

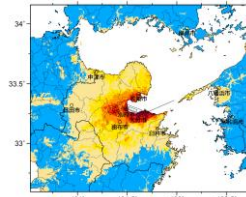
高角度



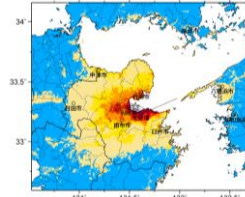
アスペリティと破壊開始点の配置図



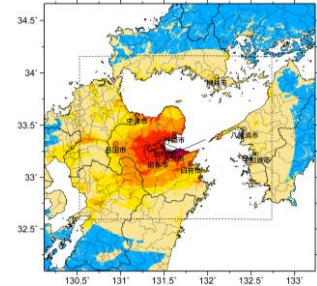
詳細法ケース 1



詳細法ケース 2

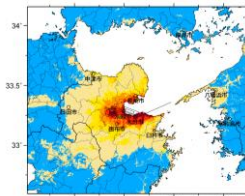


詳細法ケース 3

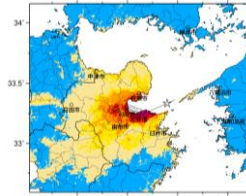


※図中の矩形は詳細法による  
解析範囲

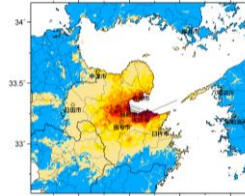
簡便法



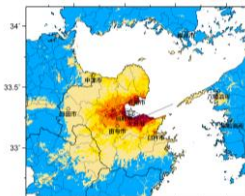
詳細法ケース 4



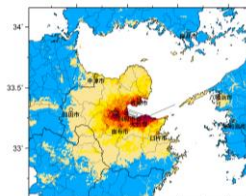
詳細法ケース 5



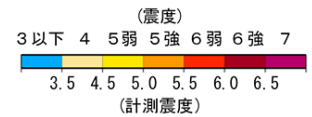
詳細法ケース 6



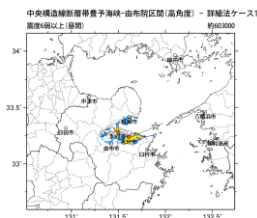
詳細法ケース 7



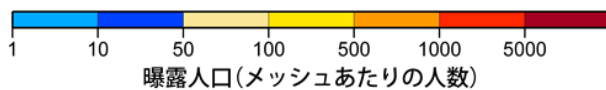
詳細法ケース 8



地表震度分布



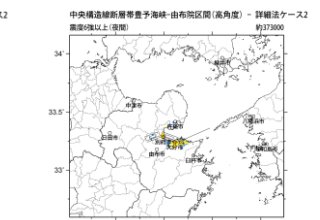
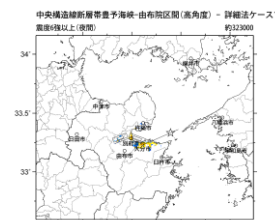
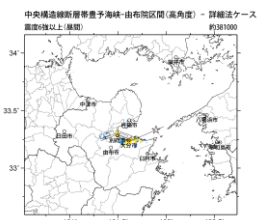
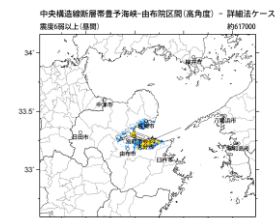
詳細法ケース 1



詳細法ケース 2

(各図右肩数字は区域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例



中央構造線断層帯豊予海峡-由布院区間【高角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図(シナリオ地震動予測地図)

**震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）**  
**中央構造線断層帯 金剛山地東縁区間～豊予海峡～由布院区間**  
**強震動予測のための震源パラメータ（2018年版提示モデル）**

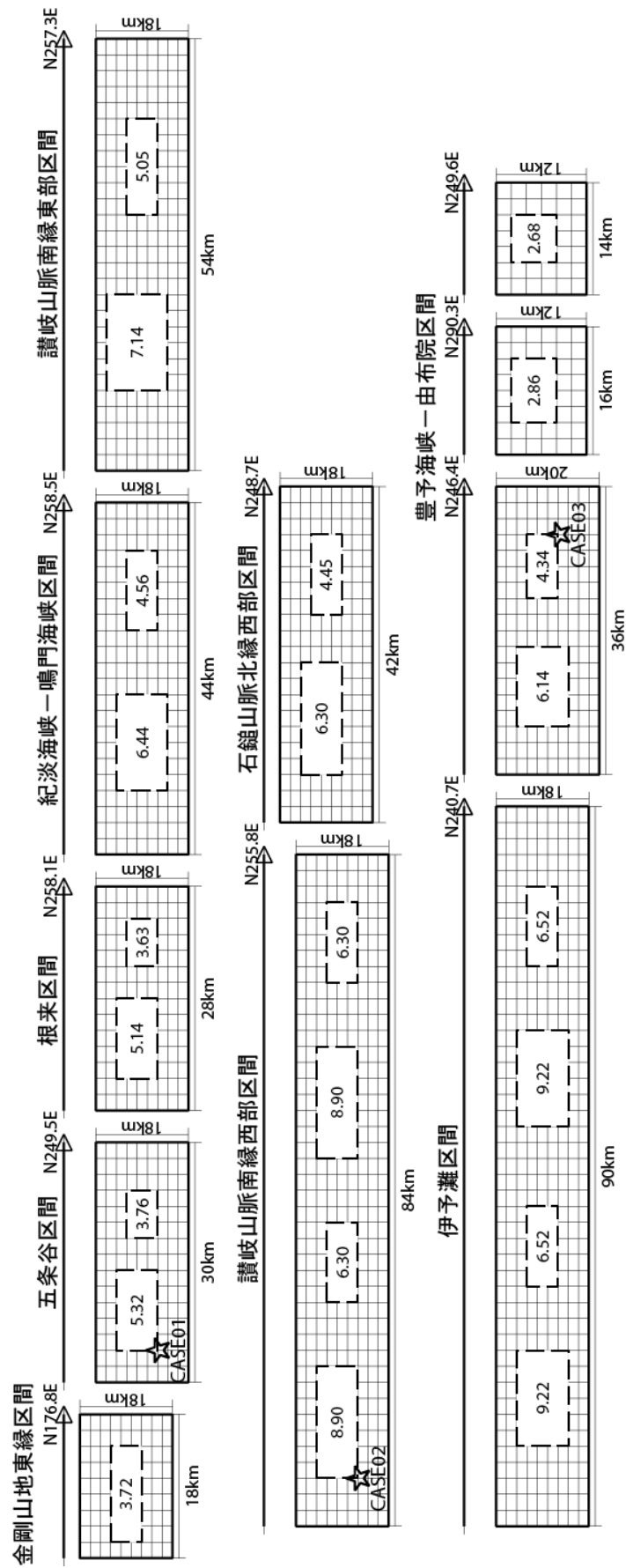
上層の震源パラメータ		中角度											
断層長さ $L$ [km]	444km	8.0°程度以上											
地震規模 $M$	7.9												
設定手順													電子
モーメント $M_0$ [Nm]	$8.10E+20$	8100.0											
モーメントマグニチュード $M_w$	7.9	3.1											
断層モデル総面積 $S_{total}$ [km <sup>2</sup> ]	3.20	3.20											
断層モデル断層深さ $H_d$ [km]	8.10E+20												
断層モデル断層深さ $H_u$ [km]	8.10E+20												
平均すべり量 $D$ [m]	7.9												
地震発生層上層深さ $H_2$ [km]	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
地震発生層下層深さ $H_4$ [km]	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
すべり角 $\delta$ [度]	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
傾斜角 $\theta$ [度]	176.8	249.5	258.1	258.5	257.3	255.8	248.7	240.7	246.4	290.3	249.6	290.3	249.6
すべり角 $\theta$ [度]	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
断層モデル原深さ $D_{seg}$ [km]	90	180	180	180	180	180	180	180	180	180	180	180	180
断層モデル原深さ $D_{top}$ [km]	34.5491	34.4101	34.3398	34.2886	34.2186	34.1255	33.9276	33.7935	33.3816	33.2456	33.2960	33.2456	33.2960
断層モデル原深さ $D_{seg}$ [km]	135.6597	135.6928	135.3973	135.0986	134.6423	134.0908	133.2345	132.7826	131.9633	131.6304	131.4591	131.6304	131.4591
断層モデル長さ $L_{seg}$ [km]	2	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
断層モデル幅 $W_{seg}$ [km]	18	30	28	44	54	84	42	90	36	16	14	14	14
断層モデル面積 $S_{seg}$ [km <sup>2</sup> ]	18.0	18.0	18.0	18.0	18.0	18.0	18.0	18.0	20.0	12.0	12.0	12.0	12.0
断層モデル断層モーメント $M_{0seg}$ [Nm]	324.0	540.0	504.0	792.0	972.0	1512.0	756.0	1620.0	720.0	192.0	168.0	192.0	168.0
断層モデル平均すべり量 $D_{seg}$ [m]	1.88E+19	4.05E+19	3.65E+19	7.19E+19	9.77E+19	1.90E+20	6.70E+19	2.10E+20	6.23E+19	8.58E+18	7.02E+18	8.58E+18	7.02E+18
断層モデル断層モーメント $M_{0seg}$ [Nm]	1.86	2.40	2.32	2.91	3.22	4.02	2.84	4.16	2.77	1.43	1.34	1.43	1.34
微細的震源パラメータ													
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>2</sup> ]	4.88E+19												
短周期レベル (参照) $A_{200}$ [Nm/s <sup>2</sup> ]	4.94E+19												
短周期レベル $A_{200}$ [Nm/s <sup>2</sup> ]	1782.0												
断層面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	14.1												
断層実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	14.1												
断層実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	71.3	118.8	110.9	174.2	213.8	332.6	166.3	356.4	158.4	42.2	37.0	158.4	42.2
断層実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	3.72	4.80	4.64	5.81	6.44	8.03	5.68	8.32	5.54	2.86	2.68	5.54	2.86
断層実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	8.27E+18	1.78E+19	1.61E+19	3.16E+19	4.30E+19	8.34E+19	2.95E+19	9.25E+19	2.74E+19	3.77E+18	3.09E+18	2.74E+19	3.77E+18
断層実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	71.3	79.2	73.9	116.2	142.6	110.9	110.9	118.8	105.6	42.2	37.0	105.6	42.2
断層実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1
断層実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	3.72	5.32	5.14	6.44	7.14	8.90	6.30	9.22	6.14	2.86	2.68	6.14	2.86
断層実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	8.27E+18	1.32E+19	1.19E+19	2.34E+19	3.18E+19	3.08E+19	2.18E+19	3.42E+19	2.02E+19	3.77E+18	3.09E+18	2.02E+19	3.77E+18
断層実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	12 × 6	10 × 8	10 × 8	12 × 10	12 × 12	14 × 8	14 × 8	12 × 10	10 × 6	8 × 6	6 × 6	10 × 6	8 × 6
断層実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	—	39.6	37.0	58.1	71.3	55.4	55.4	59.4	52.8	—	—	52.8	—
断層実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	—	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	—	—	14.1	—
断層実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	—	3.76	3.63	4.56	5.05	6.30	4.45	6.52	4.34	—	—	6.52	—
断層実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	—	4.65E+18	4.19E+18	8.26E+18	1.12E+19	1.09E+19	7.70E+18	1.21E+19	7.16E+18	—	—	1.21E+19	—
断層実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	—	6 × 6	6 × 6	10 × 6	12 × 6	10 × 6	10 × 6	10 × 6	8 × 6	—	—	10 × 6	—
断層実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	252.7	421.2	393.1	617.8	758.2	1179.4	589.7	1263.6	561.6	149.8	131.0	561.6	149.8
断層実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	1.7	2.3	2.2	2.7	3.0	2.7	2.7	2.8	2.3	2.5	2.5	2.3	2.5
断層実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	1.33	1.72	1.66	2.09	2.31	2.88	2.04	2.98	1.99	1.03	0.96	1.99	1.03
断層実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	1.05E+19	2.27E+19	2.04E+19	4.02E+19	5.47E+19	1.06E+20	3.75E+19	1.18E+20	3.49E+19	4.80E+18	3.93E+18	3.49E+19	4.80E+18

注：各評価単位区間について設定された震源断層の面積の総和より経験的關係式を用いて地震規模（モーメント）を設定した。詳細は付録1の4.1節を参照。  
 讃岐山脈南縁西部区間の一部、石鎚山脈北縁西部区間の一部と並走する石鎚山脈北縁区間は除外

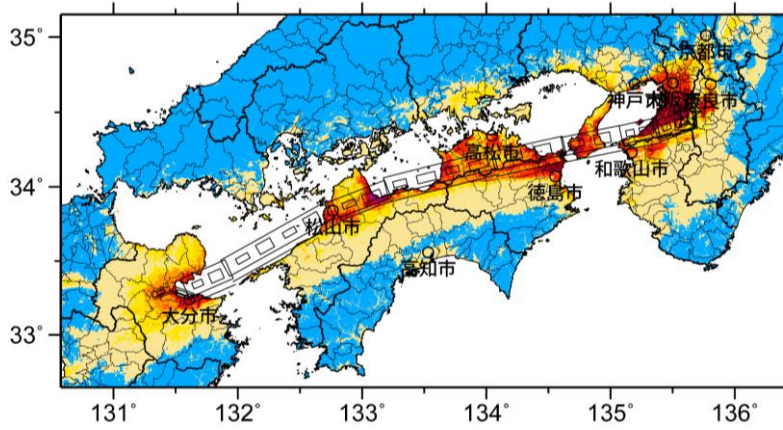


巨視的震源パラメータ												
断層長さ $L$ [km]	444km											
地震規模 $M$	8.0程度以上 注のとおり											
設定手順												
モーメント $M_0$ [Nm]	5.91E+20											
モーメント $M_w$	7.8											
断層モデル総面積 $S_{total}$ [km <sup>2</sup> ]	5912.0											
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]	3.1											
平均すべり量 $D$ [m]	3.20											
セグメント												
地震発生層上縁深さ $H_s$ [km]	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	豊子
地震発生層下縁深さ $H_d$ [km]	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	4
走向 $\theta$ [度]	176.8	249.5	258.1	258.5	257.3	255.8	248.7	240.7	246.4	290.3	249.6	4
傾斜角 $\delta$ [度]	40	90	90	90	90	90	90	90	90	90	70	70
すべり角 $\epsilon$ [度]	90	180	180	180	180	180	180	180	180	180	-90	-90
断層モデル原点緯度 [°N]	34.5491	34.3962	34.3015	34.2483	34.1786	34.0860	33.9342	33.7792	33.3619	33.2456	33.2960	33.2960
断層モデル原点経度 [°E]	135.6597	135.7222	135.4292	135.1195	134.6643	134.1140	133.4399	132.8046	131.9736	131.6304	131.4591	131.4591
断層モデル上縁深さ $D_{top}$ [km]	2	4	4	4	4	4	2	4	4	4	4	4
セグメント長さ $L_{seg}$ [km]	18	34	32	46	56	86	46	92	36	16	14	14
セグメント幅 $W_{seg}$ [km]	18.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	14.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0
セグメント面積 $S_{seg}$ [km <sup>2</sup> ]	324.0	408.0	384.0	552.0	672.0	1032.0	644.0	1104.0	432.0	192.0	168.0	168.0
セグメント地震モーメント $M_{0seg}$ [Nm]	2.27E+19	3.21E+19	2.93E+19	5.04E+19	6.78E+19	1.29E+20	6.36E+19	1.43E+20	3.49E+19	1.03E+19	8.47E+18	8.47E+18
セグメント平均すべり量 $D_{seg}$ [m]	2.24	2.52	2.44	2.93	3.23	4.00	3.16	4.14	2.59	1.73	1.62	1.62
微視的震源パラメータ												
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>3</sup> ]	4.16E+19											
短周期レベル (参照) $A_{sum}$ [Nm/s <sup>3</sup> ]	4.45E+19											
全												
総面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	1300.6											
実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	14.1											
テラス	71.3	89.8	84.5	121.4	147.8	227.0	141.7	242.9	95.0	42.2	37.0	37.0
アイベリ	4.49	5.03	4.88	5.86	6.46	8.01	6.33	8.28	5.18	3.45	3.23	3.23
地震モーメント $M_{0seg}$ [Nm]	9.98E+18	1.41E+19	1.29E+19	2.22E+19	2.98E+19	5.67E+19	2.80E+19	6.28E+19	1.54E+19	4.55E+18	3.73E+18	3.73E+18
テラス	71.3	59.8	56.3	81.0	98.6	75.7	94.5	81.0	63.4	42.2	37.0	37.0
アイベリ	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1
1	9.98E+18	1.04E+19	9.52E+18	1.64E+19	2.20E+19	2.10E+19	2.07E+19	2.32E+19	1.14E+19	4.55E+18	3.73E+18	3.73E+18
2	12 × 6	10 × 6	10 × 6	10 × 8	10 × 10	12 × 6	12 × 8	10 × 8	8 × 8	8 × 6	6 × 6	6 × 6
テラス	—	29.9	28.2	40.5	49.3	37.8	47.2	40.5	31.7	—	—	—
アイベリ	—	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	—	—	—
1	—	3.95	3.83	4.59	5.06	6.27	4.96	6.49	4.06	—	—	—
2	—	3.68E+18	3.68E+18	5.80E+18	7.79E+18	7.41E+18	7.31E+18	8.20E+18	4.01E+18	—	—	—
背景	—	8 × 4	8 × 4	6 × 6	8 × 6	6 × 6	8 × 6	6 × 6	8 × 4	—	—	—
傾斜	252.7	318.2	299.5	430.6	524.2	805.0	502.3	861.1	337.0	149.8	131.0	131.0
1	1.7	2.9	2.9	3.4	3.8	3.3	3.2	3.4	3.0	2.5	2.5	2.5
2	1.61	1.81	1.75	2.10	2.32	2.87	2.27	2.97	1.86	1.24	1.16	1.16
城	1.27E+19	1.80E+19	1.64E+19	2.83E+19	3.79E+19	7.22E+19	3.56E+19	7.99E+19	1.96E+19	5.80E+18	4.74E+18	4.74E+18

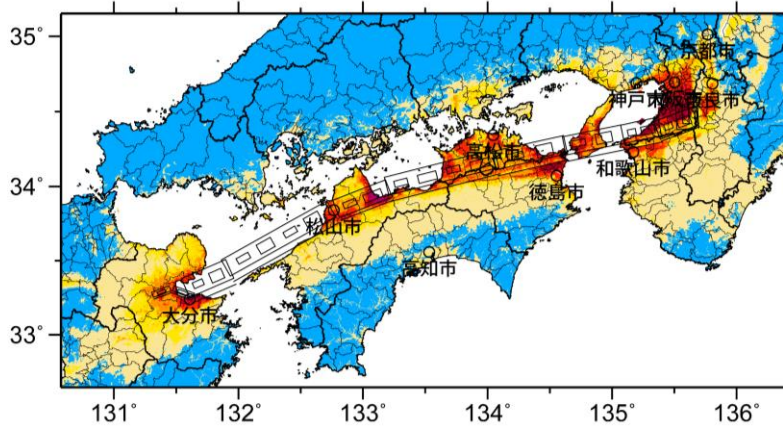
注：各評価単位区間について設定された震源断層の面積の総和より経験的關係式を用いて地震規模（モーメント）を設定した。詳細は付録1の4.1節を参照。  
讃岐山脈南縁西部区間の一部、石鎚山脈北縁西部区間の一部と並走する石鎚山脈北縁区間は除外



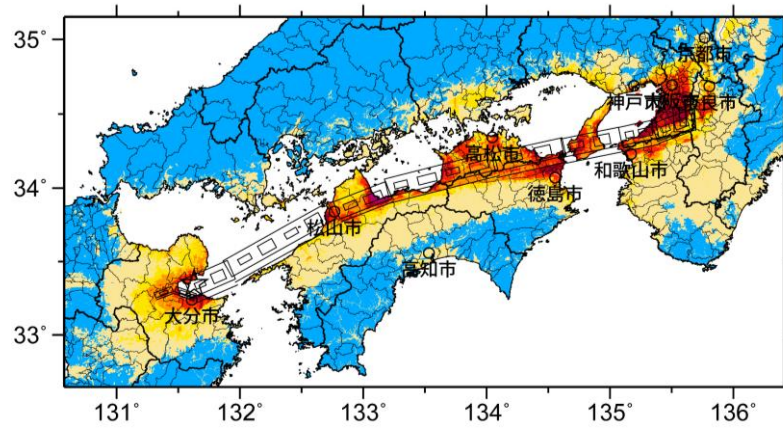
アスペリティと破壊開始点の配置図



詳細法ケース 1



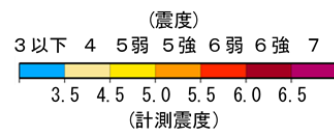
詳細法ケース 2



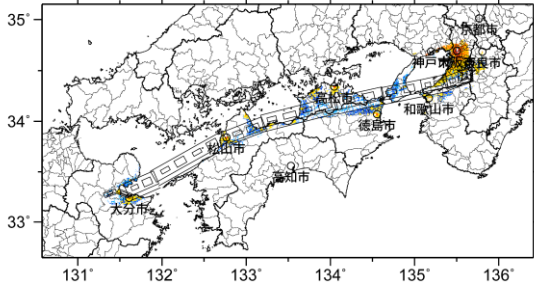
詳細法ケース 3

※図中の矩形は詳細法による解析範囲

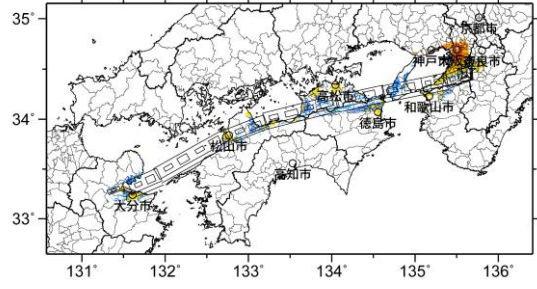
簡便法  
地表震度分布



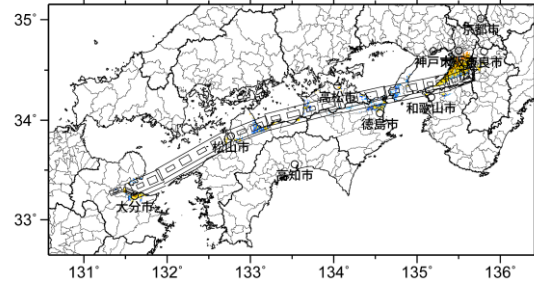
中央構造線断層帯全体(中角度) - 詳細法ケース1  
震度6弱以上(昼間) 約9859000



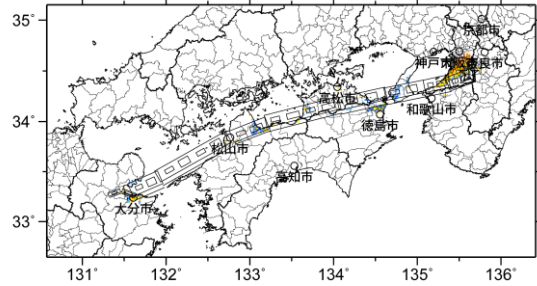
中央構造線断層帯全体(中角度) - 詳細法ケース1  
震度6弱以上(夜間) 約9798000



中央構造線断層帯全体(中角度) - 詳細法ケース1  
震度6強以上(昼間) 約3412000

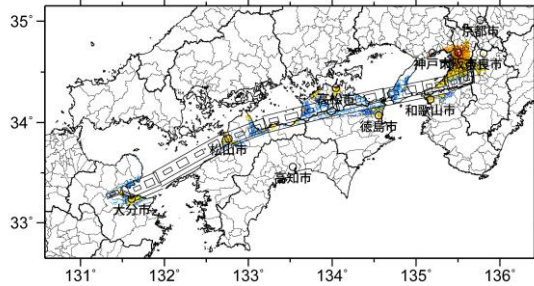


中央構造線断層帯全体(中角度) - 詳細法ケース1  
震度6強以上(夜間) 約3653000

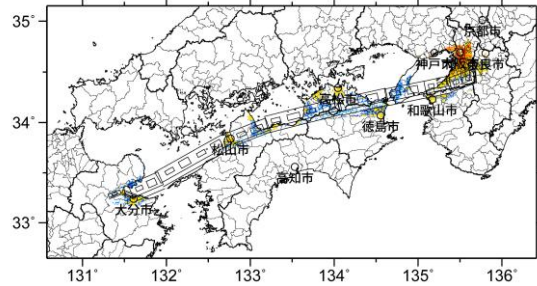


詳細法ケース 1

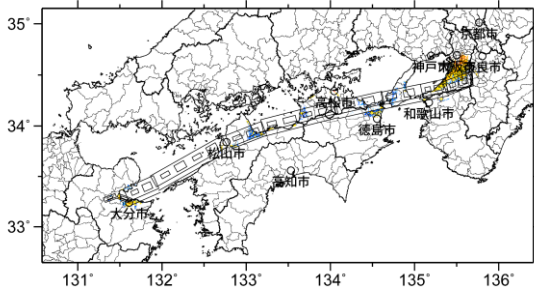
中央構造線断層帯全体(中角度) - 詳細法ケース2  
震度6弱以上(昼間) 約10147000



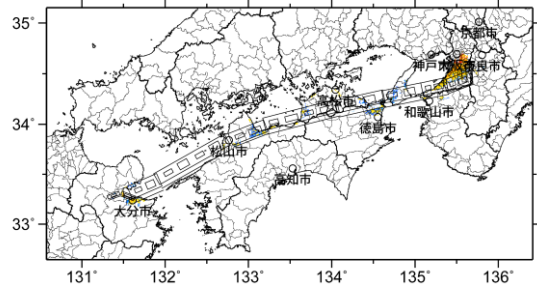
中央構造線断層帯全体(中角度) - 詳細法ケース2  
震度6弱以上(夜間) 約9904000



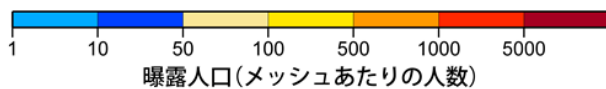
中央構造線断層帯全体(中角度) - 詳細法ケース2  
震度6強以上(昼間) 約3588000



中央構造線断層帯全体(中角度) - 詳細法ケース2  
震度6強以上(夜間) 約3841000



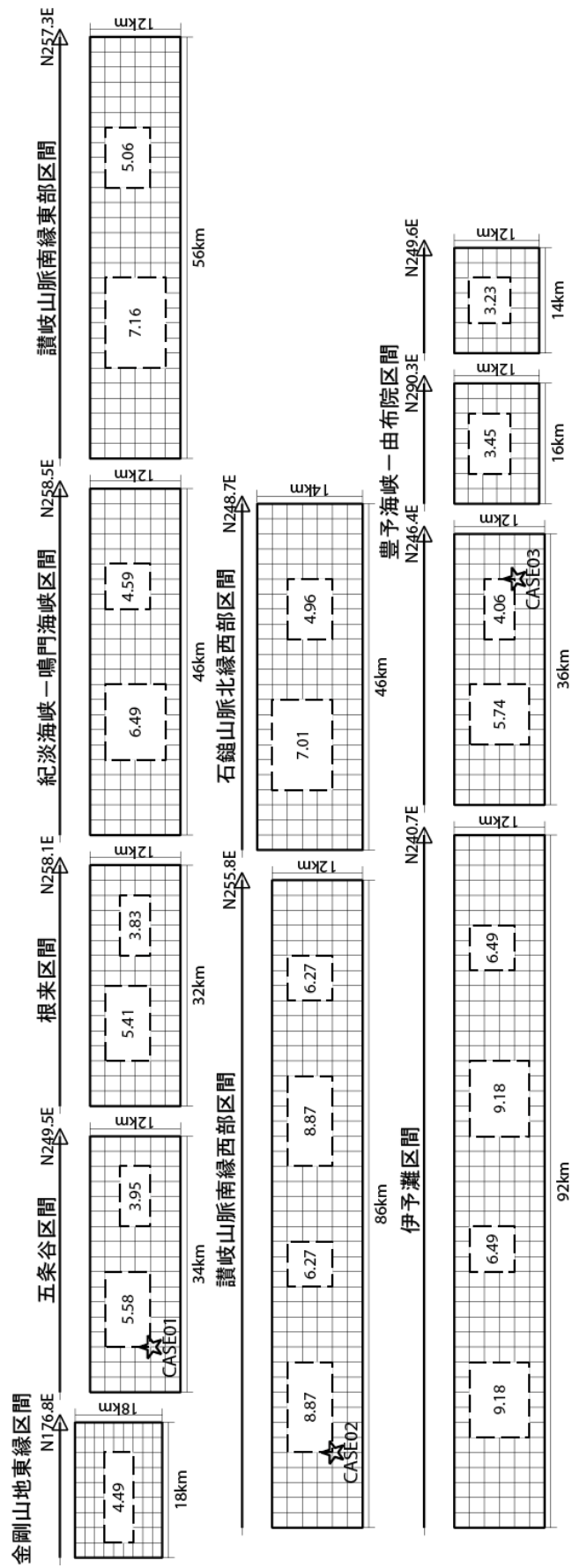
詳細法ケース 2



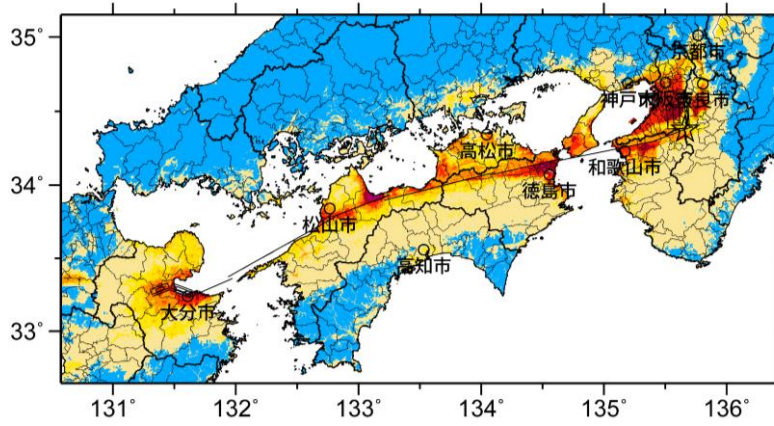
曝露人口(メッシュあたりの人数)  
(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

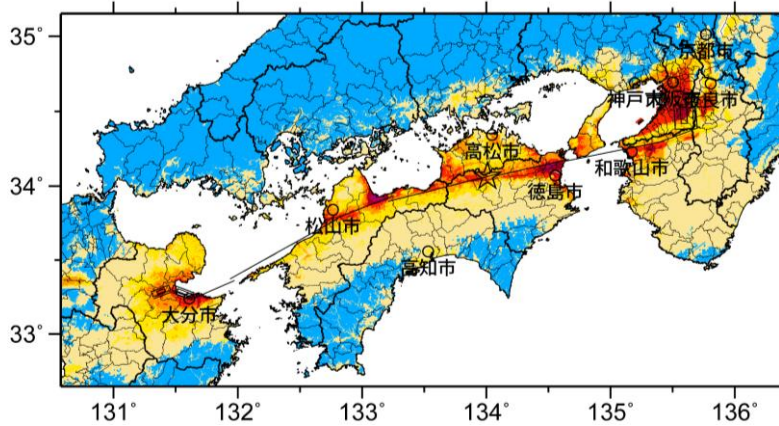
中央構造線断層帯 金剛山地東縁区間～豊予海峡～由布院区間【中角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図(シナリオ地震動予測地図)



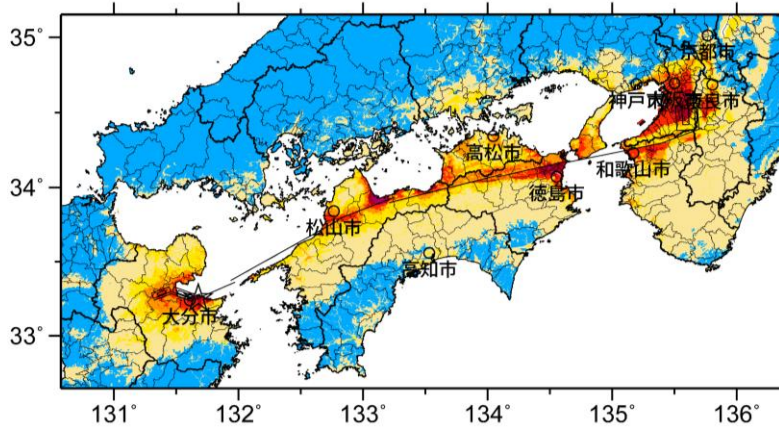
アスペリティと破壊開始点の配置図



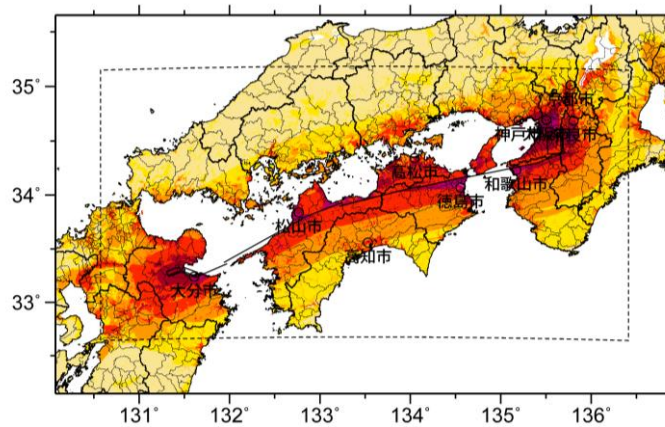
詳細法ケース 1



詳細法ケース 2

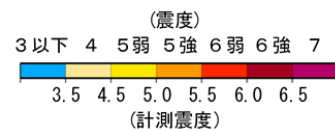


詳細法ケース 3

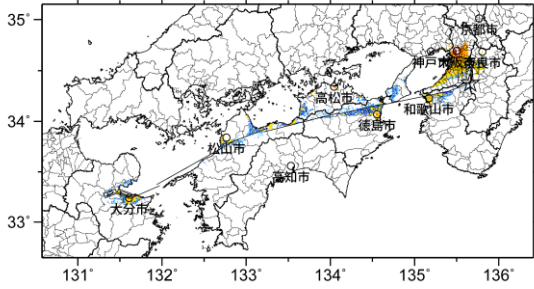


※図中の矩形は詳細法による解析範囲

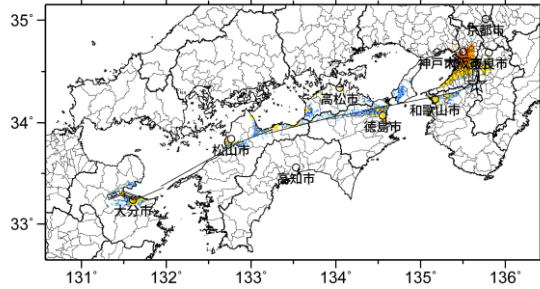
簡便法  
地表震度分布



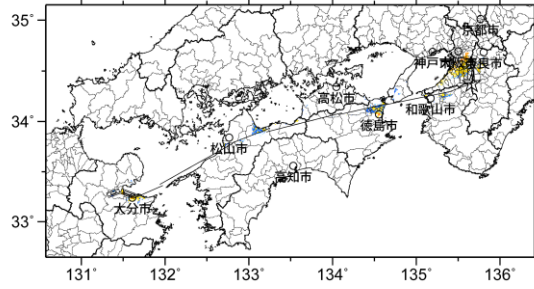
中央構造線断層帯全体(高角度) - 詳細法ケース1  
震度6弱以上(昼間) 約7476000



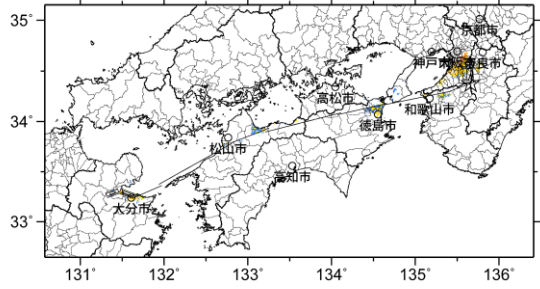
中央構造線断層帯全体(高角度) - 詳細法ケース1  
震度6弱以上(夜間) 約7686000



中央構造線断層帯全体(高角度) - 詳細法ケース1  
震度6強以上(昼間) 約2006000

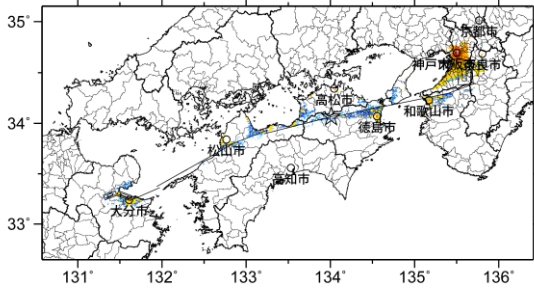


中央構造線断層帯全体(高角度) - 詳細法ケース1  
震度6強以上(夜間) 約2101000

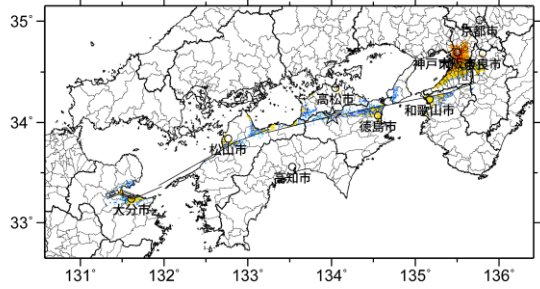


詳細法ケース 1

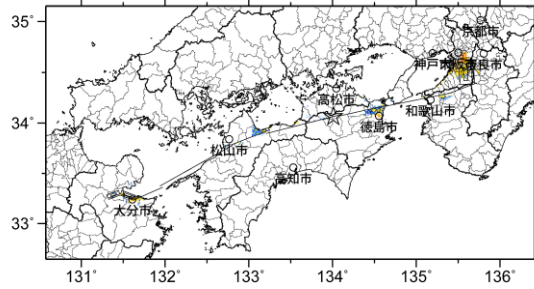
中央構造線断層帯全体(高角度) - 詳細法ケース2  
震度6弱以上(昼間) 約9006000



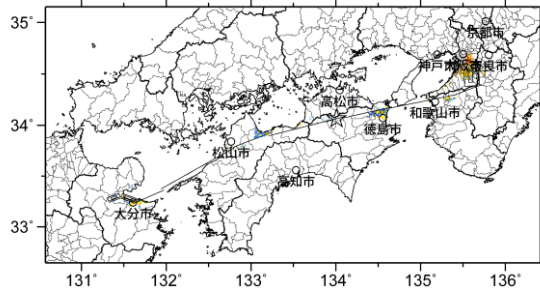
中央構造線断層帯全体(高角度) - 詳細法ケース2  
震度6弱以上(夜間) 約8815000



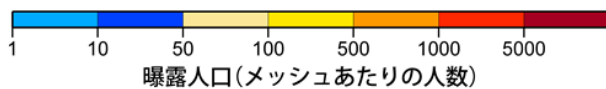
中央構造線断層帯全体(高角度) - 詳細法ケース2  
震度6強以上(昼間) 約2016000



中央構造線断層帯全体(高角度) - 詳細法ケース2  
震度6強以上(夜間) 約2036000



詳細法ケース 2



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

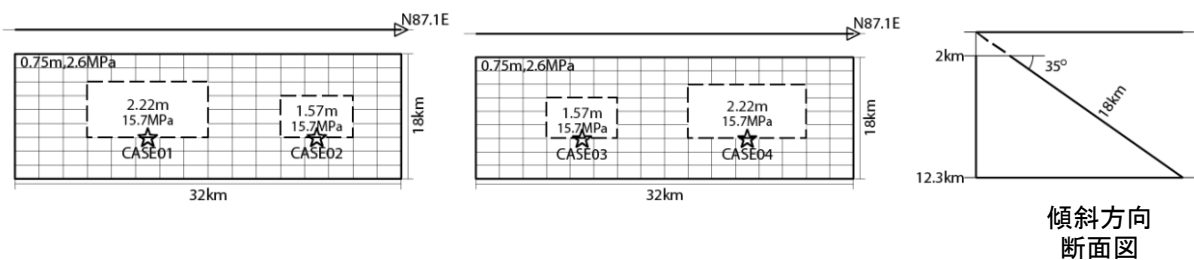
震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯 金剛山地東縁区間～豊予海峡-由布院区間【高角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図(シナリオ地震動予測地図)

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）  
長尾断層帯

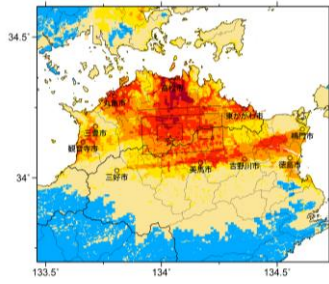
強震動予測のための震源パラメータ（2018年版提示モデル）

巨視的震源パラメータ		
断層長さ $L$ [km]		30
地震規模 $M$		7.3
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]		2
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]		15
設定手順		(イ)
地震モーメント $M_0$ [Nm]		1.80E+19
モーメントマグニチュード $M_w$		6.8
断層モデル面積 $S_{model}$ [km <sup>2</sup> ]		576
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		3.2
平均すべり量 $D$ [m]		1.00
走向 $\theta$ [度]		87.1
傾斜角 $\delta$ [度]		35
すべり角 $\lambda$ [度]		90
断層モデル原点緯度 [°N]		34.2156
断層モデル原点経度 [°E]		133.9131
断層モデル上端深さ $D_{top}$ [km]		2
断層モデル長さ $L_{model}$ [km]		32
断層モデル幅 $W_{model}$ [km]		18
微視的震源パラメータ		
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.39E+19
短周期レベル（参照） $A_{Dan}$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.39E+19
リア テイ ス ペ	面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	116.3
	実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	15.7
	すべり量 $D_a$ [m]	2.00
	地震モーメント $M_{0a}$ [Nm]	7.27E+18
ア ス ペ リ テ ィ	面積 $S_{a1}$ [km <sup>2</sup> ]	77.5
	実効応力 $\sigma_{a1}$ [MPa]	15.7
	すべり量 $D_{a1}$ [m]	2.22
	地震モーメント $M_{0a1}$ [Nm]	5.37E+18
	計算用面積 [km×km]	10 × 8
ア ス ペ リ テ ィ	面積 $S_{a2}$ [km <sup>2</sup> ]	38.8
	実効応力 $\sigma_{a2}$ [MPa]	15.7
	すべり量 $D_{a2}$ [m]	1.57
	地震モーメント $M_{0a2}$ [Nm]	1.90E+18
	計算用面積 [km×km]	6 × 6
背 景 領 域	面積 $S_b$ [km <sup>2</sup> ]	459.7
	実効応力 $\sigma_b$ [MPa]	2.6
	すべり量 $D_b$ [m]	0.75
	地震モーメント $M_{0b}$ [Nm]	1.07E+19

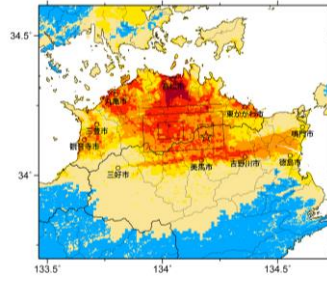


アスペリティと破壊開始点の配置図

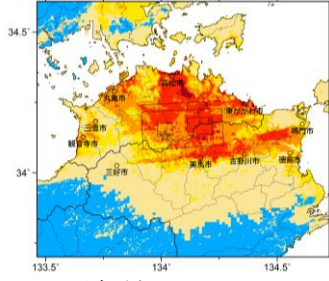




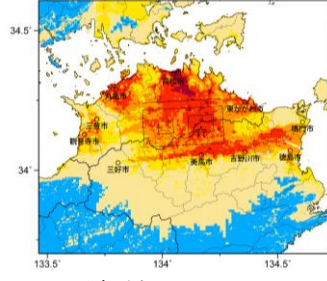
詳細法ケース 1



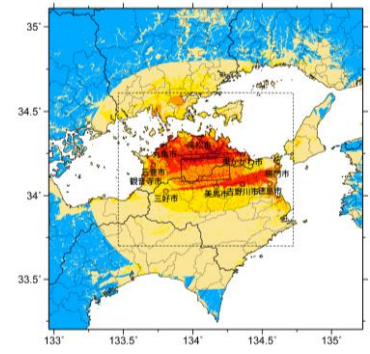
詳細法ケース 2



詳細法ケース 3

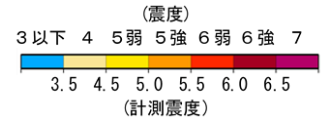


詳細法ケース 4

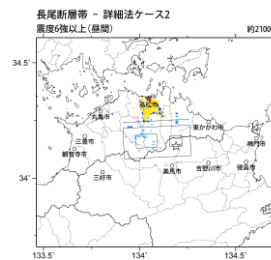
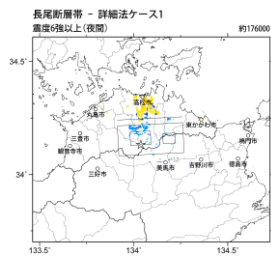
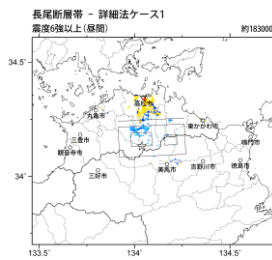
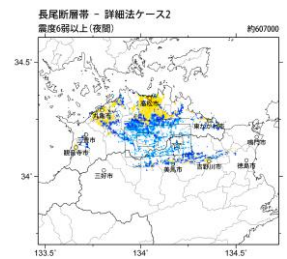
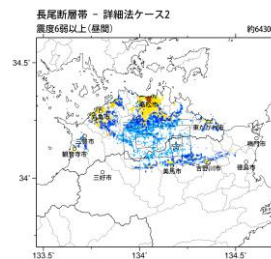
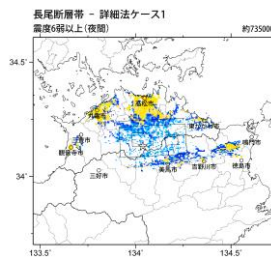
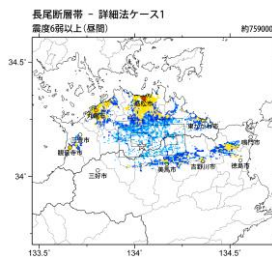


※図中の矩形は詳細法による解析範囲

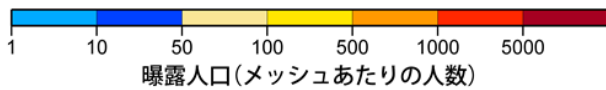
簡便法



地表震度分布



詳細法ケース 1



詳細法ケース 2

(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

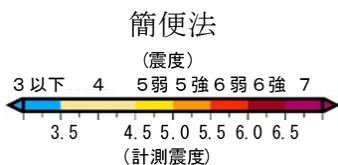
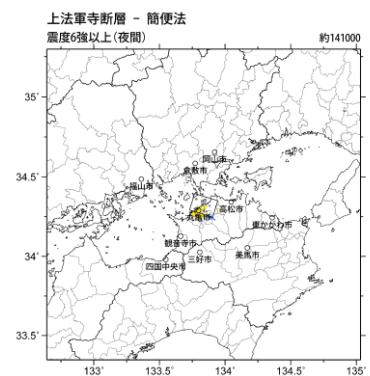
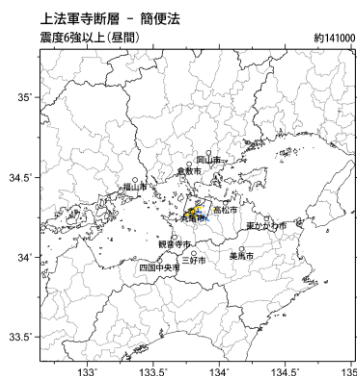
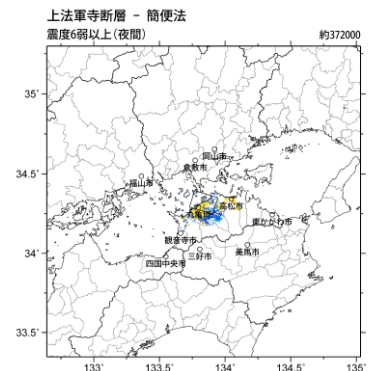
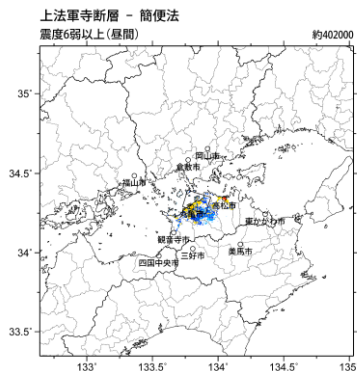
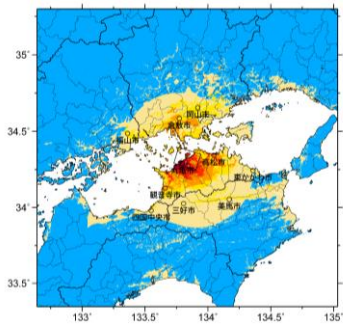
震度曝露人口分布の例

長尾断層帯  
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

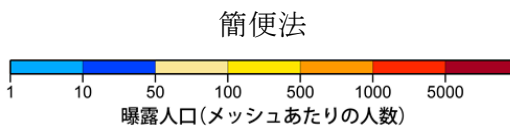
# 震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図） 上法軍寺断層

強震動予測のための震源パラメータ（2018年版提示モデル）

巨視的震源パラメータ	
断層長さ $L$ [km]	5
地震規模 $M$	6.8
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]	2
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]	15
設定手順	(イ)
地震モーメント $M_0$ [Nm]	4.66E+18
モーメントマグニチュード $M_w$	6.4
断層モデル面積 $S_{model}$ [km <sup>2</sup> ]	289
走向 $\theta$ [度]	286.8
傾斜角 $\delta$ [度]	45
断層モデル原点緯度 [°N]	34.2473
断層モデル原点経度 [°E]	133.9063
断層モデル上端深さ $D_{top}$ [km]	2
断層モデル長さ $L_{model}$ [km]	17
断層モデル幅 $W_{model}$ [km]	17



地表震度分布



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

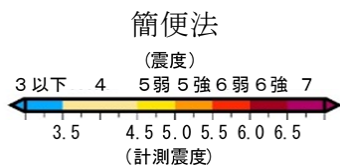
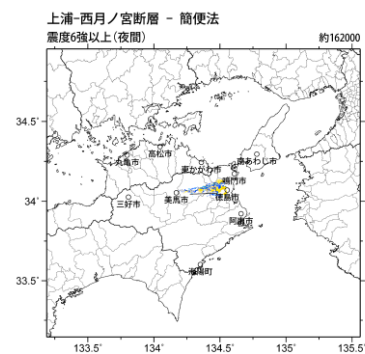
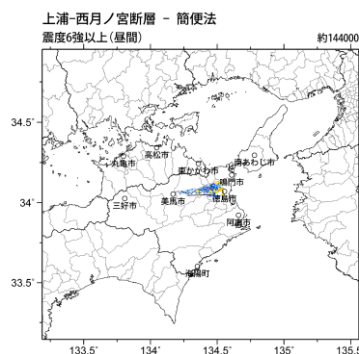
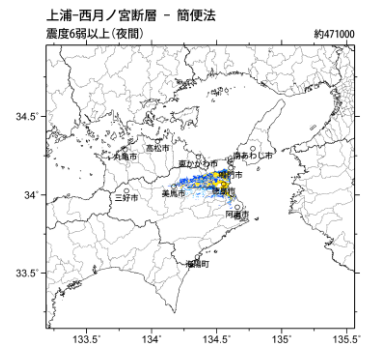
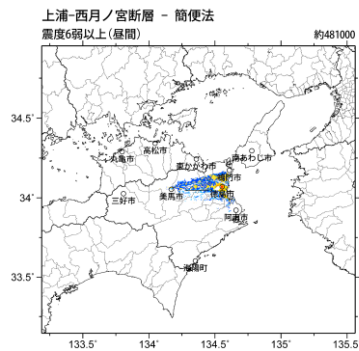
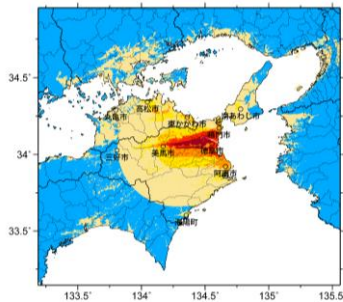
震度曝露人口分布の例

## 上法軍寺断層 震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）

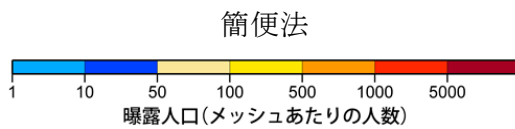
**震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）**  
**上浦－西月ノ宮断層**

強震動予測のための震源パラメータ（2018年版提示モデル）

巨視的震源パラメータ	
断層長さ $L$ [km]	10
地震規模 $M$	6.8
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]	2
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]	15
設定手順	
地震モーメント $M_0$ [Nm]	4.66E+18
モーメントマグニチュード $M_w$	6.4
断層モデル面積 $S_{model}$ [km <sup>2</sup> ]	285
走向 $\theta$ [度]	267.9
傾斜角 $\delta$ [度]	90
断層モデル原点緯度 [°N]	34.0500
断層モデル原点経度 [°E]	134.4783
断層モデル上端深さ $D_{top}$ [km]	2
断層モデル長さ $L_{model}$ [km]	15
断層モデル幅 $W_{model}$ [km]	19



地表震度分布



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

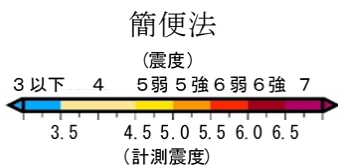
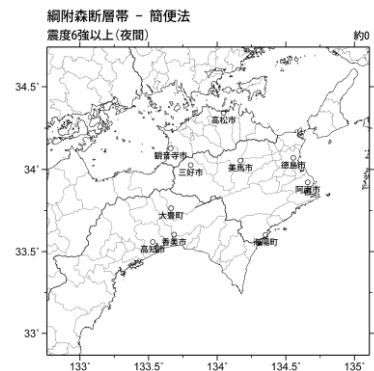
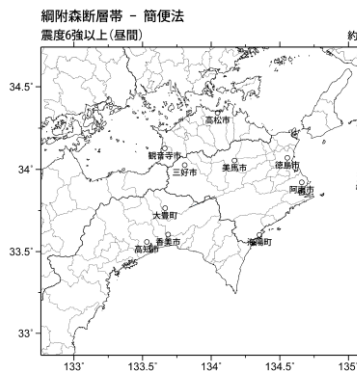
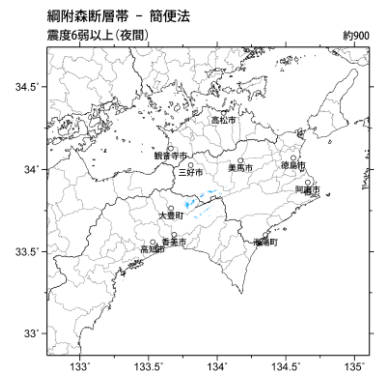
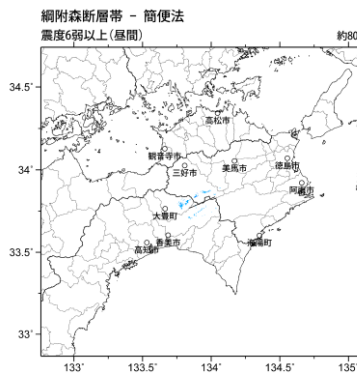
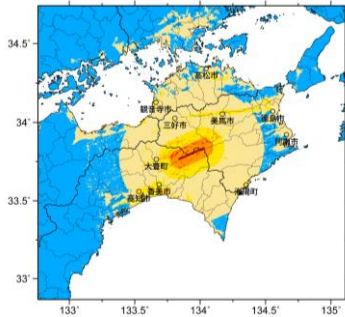
震度曝露人口分布の例

**上浦－西月ノ宮断層**  
**震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）**

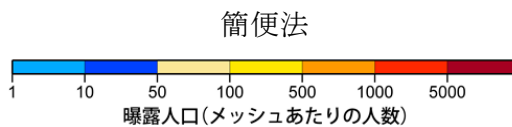
## 震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図） 網附森断層

強震動予測のための震源パラメータ（2018年版提示モデル）

巨視的震源パラメータ	
断層長さ $L$ [km]	14
地震規模 $M$	6.8
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]	2
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]	15
設定手順	(イ)
地震モーメント $M_0$ [Nm]	4.66E+18
モーメントマグニチュード $M_w$	6.4
断層モデル面積 $S_{model}$ [km <sup>2</sup> ]	285
走向 $\theta$ [度]	245.8
傾斜角 $\delta$ [度]	90
断層モデル原点緯度 [°N]	33.8367
断層モデル原点経度 [°E]	134.0283
断層モデル上端深さ $D_{top}$ [km]	2
断層モデル長さ $L_{model}$ [km]	15
断層モデル幅 $W_{model}$ [km]	19



地表震度分布



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

### 網附森断層

## 震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）